

**2011年3月期 第1四半期
SBIホールディングス株式会社
決算説明会**

2010年7月29日

本資料に掲載されている事項は、SBIホールディングス株式会社によるSBIグループの業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、SBIグループ各社の発行する株式その他の金融商品への投資の勧誘を目的としたものではありません。

また、当社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。

なお、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

1. 2011年3月期第1四半期
連結業績ならびに事業概況
2. 2010年6月実施の公募増資について
3. 規模の拡大から、利益成長重視の
第2ステージに入ったグループ経営
4. 新たな事業分野として成長し、
花開きつつあるバイオ関連事業

1. 2011年3月期第1四半期 連結業績ならびに事業概況

【セグメント区分の変更について】

今期よりセグメント情報に関する新たな会計基準が適用されたため、セグメント区分を以下の要件により変更しております。

- ・量的基準の明確化：

量的基準を満たさない「システムソリューション事業」については、報告セグメントとして開示しないこととしております。

- ・集約基準の明確化（事業セグメントの経済的特徴が概ね類似していること）：

SBIバイオテック（現行AM事業）及びホメオスタイル（現行住宅不動産関連事業）については、同一セグメント内の事業とは、その事業活動の内容及び事業上のリスクが異なり、集約することが適切ではないと考え、分離してその他の事業に集計しております。

2011年3月期第1四半期 連結決算業績

2010年3月期第3四半期を底に業績は回復基調

(単位:百万円)

	2010年3月期				2011年3月期	
	前第1四半期 (2009年4～6月)	前第2四半期 (2009年7～9月)	前第3四半期 (2009年10～12月)	前第4四半期 (2010年1～3月)	当第1四半期 (2010年4～6月)	前四半期比 増減率(%)
売 上 高	35,031	28,121	27,671	33,716	32,743	▲2.9
営 業 利 益	※1、2 3,180	※1、2 571	※1、2 421	※1、2、4 ▲742	※6 2,685	—
経 常 利 益	2,501	▲489	236	▲1,137	※7 1,038	—
当期純利益	1,899	※3 ▲1,077	663	※5 863	※8 1,264	+46.4

※1 2010年3月期を通し、SBIイコール・クレジットで11億円、SBIカードで通期4億円の貸倒引当金繰入を計上

※2 2010年3月期を通し、SBIイコール・クレジットで5億円、SBIカードで通期3億円の利息返還損失引当金繰入を計上

※3 ゼファー社向け貸付金に対して貸倒引当金15億円を特別損失に計上

※4 KTIC Holdings 前経営者の不正行為による価値毀損に対応した投資損失引当金繰入26億円(投資額全額)を計上

※5 SBIアクサ生命株式の株式譲渡益8億円、ブロードメディア株式の株式譲渡益14億円を特別利益に計上

※6 SBIカードにおいて貸倒引当金繰入を3億円計上

※7 SBI Korea Holdings において円建借入金の為替差損8.5億円を計上。

※8 ホメオスタイルにおいて、固定資産の減損等により10億円を特別損失に計上

セグメント別 営業利益の四半期推移

株式市況が昨年同時期より不透明感が増していく環境下においても、証券事業が安定的に営業利益に貢献。FS事業も回復しつつある。

(単位:百万円)

	※1 2010年3月期				2011年3月期
	前第1四半期 (2009年4～6月)	前第2四半期 (2009年7～9月)	前第3四半期 (2009年10～12月)	前第4四半期 (2010年1～3月)	当第1四半期 (2010年4～6月)
アセットマネジメント	2,090	380	521	※5 ▲448	1,109
ブローカレッジ & インベストメントバンキング	3,055	2,929	1,825	1,564	2,806
ファイナンシャル・サービス	※2、3 158	※2、3 146	※2、3 ▲245	※2、3 147	※6 476
住宅不動産関連	▲194	※4 12	581	473	525
その他	▲271	▲833	▲494	▲505	▲749

※1 2010年3月期については、セグメント変更を考慮して再計算した数値を記載

※2 2010年3月期を通し、SBIイコール・クレジットで11億円、SBIカードで通期4億円の貸倒引当金繰入を計上

※3 2010年3月期を通し、SBIイコール・クレジットで5億円、SBIカードで通期3億円の利息返還損失引当金繰入を計上

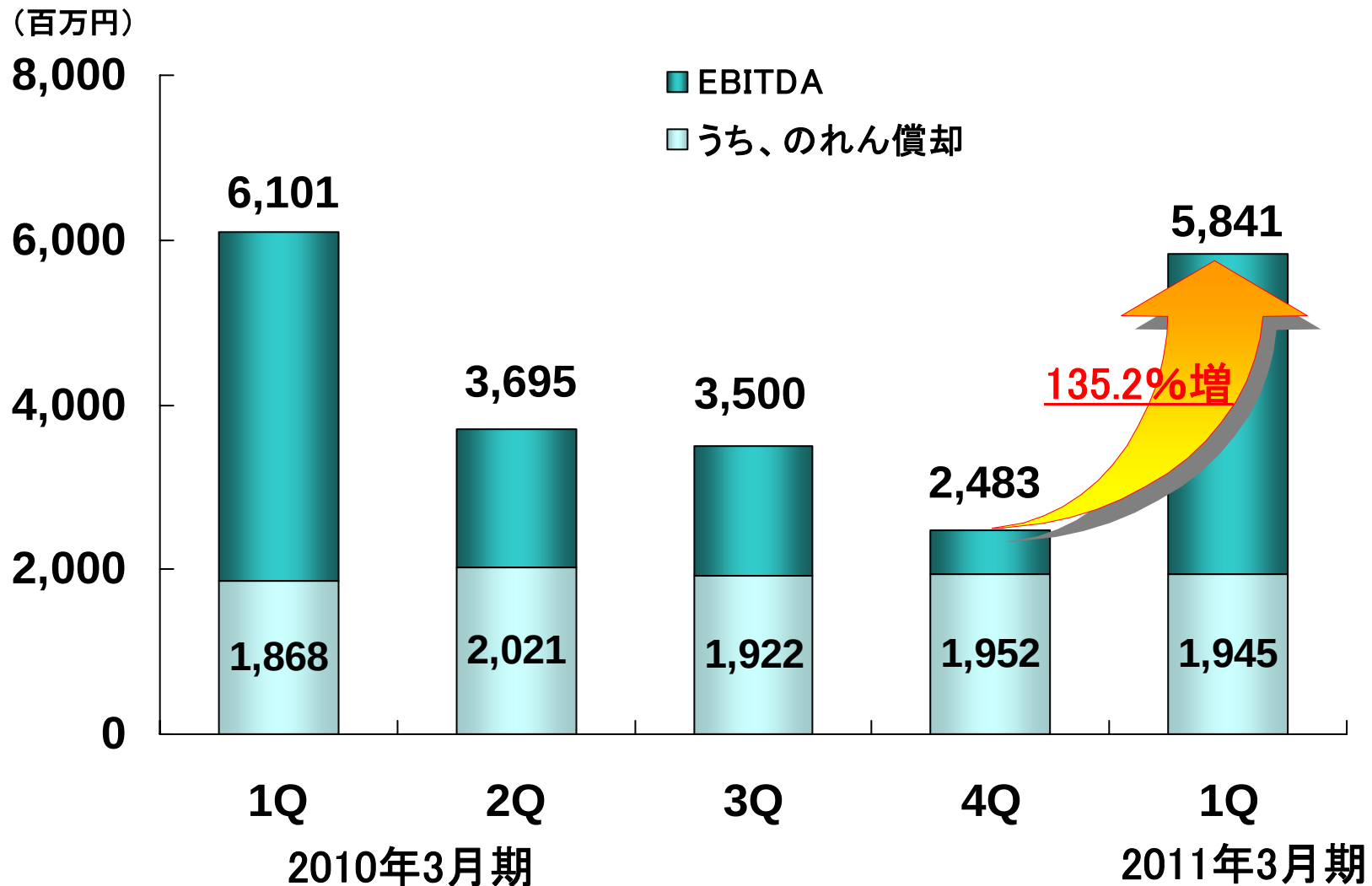
※4 SBIホールディングスにおいて、たな卸不動産評価損4億円、セムコーポレーションにおいて貸倒引当金繰入1億円を計上

※5 KTIC Holdings 前経営者の不正行為による価値毀損に対応した投資損失引当金繰入26億円(投資額全額)を計上

※6 SBIカードにおいて貸倒引当金繰入を3億円計上

EBITDA(=営業利益+減価償却費+のれん償却)の推移

2011年3月期第1四半期のEBITDAは5,841百万円となり、
前四半期(2010年3月期第4四半期)比135.2%増と大幅に改善



【主要ビジネスラインの事業概況】

【アセットマネジメント事業】

2011年3月期 第1四半期

(前四半期比) (前年同期比)

売上高 61億円 +17% ▲38%

営業利益 11億円 - (注) ▲47%

(注) アセットマネジメント事業の2010年3月期第4四半期の営業損益は▲4億円

- 国内IPO件数は、今期に入り前年同期比2倍となる6社が上場するなどIPO市場に薄日が差し始めるなか、当社投資先企業からは既に3社がIPO、M&Aによりイグジットを実現(ロックアップのため売却未了)
- New Horizon Fund(1号)における当第1四半期の営業利益貢献額が12億円となるなど、海外成長市場への積極的投資が奏功し営業黒字を確保。New Horizon Capital(2号)とあわせ、当社出資持分で66億円(7月28日時点)の含み益を有す。
- 同業他社と比較して引き続き高水準の投資を実行(当期累計179億円)

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

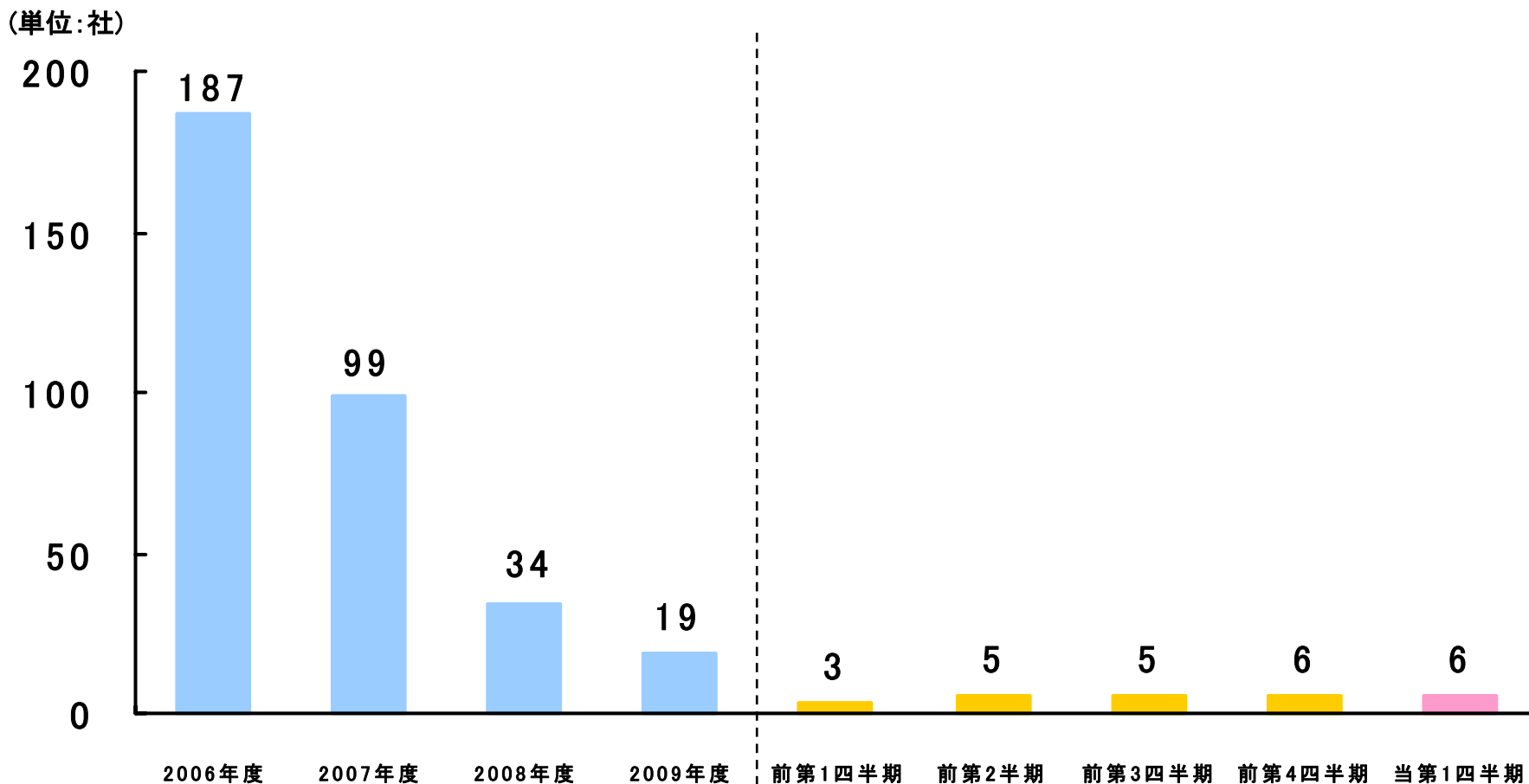
※ 前四半期比および前年同期比は、セグメント変更を考慮して計算しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

国内の新規上場会社数の推移

2009年度の上場会社数は2008年度をさらに下回る19社で着地。今期は既に前年同期比2倍の6社が上場しており、IPOマーケットに薄日が差してきた。



アセットマネジメント事業における IPO・M&A実績

	1999年7月の事業開始から 2009年3月期まで	2010年3月期 通期実績	※ 2011年3月期 通期見込み
IPO・M&A 社数	111	11	14

今期に入り、既に下記3社がIPO・M&AによりEXITを実現しています

4月1日	メディカモバイル(株)	(M&A)
5月18日	Navinfo Co., Ltd.	(深圳)※
6月23日	Harbin Gloria Pharmaceuticals Co. Ltd.	(深圳)※

※ LP出資しているNew Horizon Capital(2号ファンド) に組入れられている銘柄からのExit社数(4社)を含みます。

主要VCとの業績比較

JAFCOと当社アセットマネジメント事業の 2011年3月期第1四半期業績

(単位: 億円、%)

	売上高	前年同期比 増減率	営業利益	前年同期比 増減率
SBI アセットマネジメント事業	61	▲38.3	11	▲47.0
JAFCO (※自己持ち分方式)	34	▲2.7	4	(注3) —

<参考: 2010年3月期通期業績>

	売上高	前期比 増減率	営業利益	前期比 増減率
SBI アセットマネジメント事業	202	+26.4	(注4) 19	▲28.2
JAFCO (※自己持ち分方式)	167	▲22.2	▲50	(注5) —

(注1) JAFCOは自己持ち分方式で開示、当社は決算に採用しているファンド連結後の数値
なお、JAFCOの2010年3月期通期の最終損益は▲22億円、2011年3月期第1四半期の最終損益は6億円

(注2) 億円未満を四捨五入して表示

(注3) JAFCOの2010年3月期第1四半期の営業利益は▲7億円

(注4) KTIC Holdings株式に対して投資損失引当金26億円を計上

(注5) JAFCOの2009年3月期の営業利益は▲94億円

(データ出所: 各社開示資料より当社にて集計) 11

New Horizon Fund(1号ファンド)の今後の分配見積額

- 2005年5月の運用開始から、投資先10社のうちこれまでに8社が上場/イグジット済み
- 設立から2009年度末までの営業利益への貢献は累計で**87.8億円**、当第1四半期は**11.9億円**
- 2010年度以降も合計で**約85億円**(7/28現在)の分配金の受領を見込む

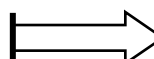
(単位: 百万USドル) (7月28日現在)

投資先名	投資残高	種類	IPO/M&A 予定	キャピタルゲイン (累計)	含み益	
Sichuan Meifeng Chemical Industry	5.5	A株		21.5	8.6	IPO/EXIT済 (時価評価)
Changsha Zoomlion Heavy Industry Science & Technology Development	2.6	A株		108.5	64.0	
Yingli Green Energy Holding	-	普通株		19.2	-	
Kingsoft	-	普通株		10.6	-	
Goldwind Science and Technology	0.1	A株		70.9	3.2	
China Cord Blood Corporation	4.1	普通株		-	8.8	
Jiangsu Ealong Biotech	-	-	-	-	-	* IPO/M&A 未済 (予想評価)
Shineway Group	12.7	プレIPO	2010	25.8	(予想) 9.4	
Cathay Industrial Biotech	12.0	プレIPO	2012	-	(予想) 79.1	
合計	37.0			256.7	173.1	

(日本円換算額) (約235億円) (約152億円)

*Shineway Groupは持分の一部をTrade sale済み

【当社受領分配金額】※



【10年度以降の見積額】(2010年7月28日現在の見込)

設立～2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2010年度以降の 総分配見積額
70億円	47億円	34億円	22億円	29億円	85億円

注: 分配金見積額は、現在及び将来上場もしくは売却する株式の予想時価から見積もった金額で、これらの金額が確定しているわけではありません。

※ 売却額より売却に付随する費用を差し引いた額。

New Horizon Capital(2号ファンド)もすでに17社に投資実行

～うち5社がIPO/M&A済みで、その他11社も2013年までのIPO/M&Aを予定～

会社名	EXIT形式	時期
GCL	M&A	2009年6月
BBMG	IPO	2009年7月
Windrace	M&A	2009年10月
Navinfo	IPO	2010年5月
Yuheng	IPO	2010年6月

IPO/M&A済み銘柄
はすでに当社持分
で**29億円**の含み益
を有している
(7月28日現在)

IPO/M&A予定銘柄: 11社

※2010年7月時点の見込みであり、変更となる可能性があります。

会社名	EXIT形式	予定時期
New Century	M&A	2010年
Emarket	M&A	2010年
Meihua	M&A	2011年
Jiahua	M&A	2011年
Tianhe	M&A	2011年
Sunac	IPO	2011年

会社名	EXIT形式	予定時期
Nineyou	M&A	2011年
Haoyue	IPO	2011年
Cathay	IPO	2012年
CGA	IPO	2012年
Sinovel	IPO	2013年

2011年3月期 第1四半期の投資実行額

～投資会社として日本で最も活発な投資実行を継続～

単位: 百万円
(投資会社数)

	投資実行額		
	当1Q (4月～6月)	(参考) 前1Q累計	(参考) 前通期累計
【ファンドによる投資分】	12, 730 (49社)	15, 553 (48社)	54, 370 (132社)
内 株式等	6, 573 (29社)	6, 384 (30社)	21, 709 (88社)
内 その他 (社債等)	6, 157 (20社)	9, 168 (18社)	32, 660 (44社)
【直接投資分】	5, 206 (5社)	1, 109 (3社)	5, 161 (11社)
内 株式等	5, 206 (5社)	10 (2社)	4, 001 (9社)
内 その他 (社債等)	—	1, 099 (1社)	1, 159 (2社)
【 合 計 】	17, 936 (54社)	16, 663 (51社)	59, 532 (143社)
【比較: JAFCO】	5, 399 (31社)	1, 375 (23社)	17, 647 (101社)

注) 1社に対し複数回投資実行した場合は、累計において1社とカウントし重複を排除しています。

(データ出所: 各社開示資料より当社にて集計)

グループ運用資産総額の状況

2010年6月末現在 5, 222億円

プライベート・エクイティ等 2, 734億円

〔IT・バイオ等〕 合計 1, 286

インターネット 38

ブロードバンド・メディア 533

モバイル 278

バイオ・その他 ※1、2 437

〔環境・エネルギー ※2 〕 81

〔直接投資〕 296

〔バイアウト・メザニン〕 合計 396

バリュウアップ 209

メザニン 187

〔海外〕 合計 674

中国 ※2 319

ベトナム 78

インド 89

ハンガリー 139

その他 ※2 49

〔投資信託等〕 1, 977億円

投資信託 366

投資顧問 1, 596

投資法人 15

〔不動産等〕 512億円

開発物件 296

稼働物件 215

不動産は投資総額、投資信託・投資顧問等は2010年6月末の時価純資産、その他ファンドは2010年6月時点の各ファンドの直近決算に基づく時価純資産で記載。億円未満は四捨五入。

※1 SBI HIKARI P.E. 及びSBIトランスサイエンスが運用するファンドを含みます。

※2 決算期を迎えていないものについては、出資約束金額ベースで算出。

【証券関連事業】

2011年3月期 第1四半期

(前四半期比) (前年同期比)

売上高	131億円	+10%	▲3%
営業利益	28億円	+79%	▲8%

- 2011年3月期第1四半期の個人株式委託売買代金が前四半期比4.6%減少するなど低調なマーケットが続く中、SBI証券における2011年3月期第1四半期の株式委託売買代金は前四半期比3.5%増加。株式委託売買代金の増加により委託手数料収入が前四半期比10.8%増加したほか、投資信託の販売好調により投資信託関連収益も同12.4%増となり、営業収益は前四半期比9.1%増、営業利益は同44.5%増となる。
- 2008年11月に営業開始したSBIリクイディティ・マーケットは短期間で連結業績に多大な貢献をする子会社に成長(当第1四半期の営業利益貢献額は、SBI証券におけるトレーディング益を含め連結ベースで約25億円)

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 前四半期比および前年同期比は、セグメント変更を考慮して計算しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

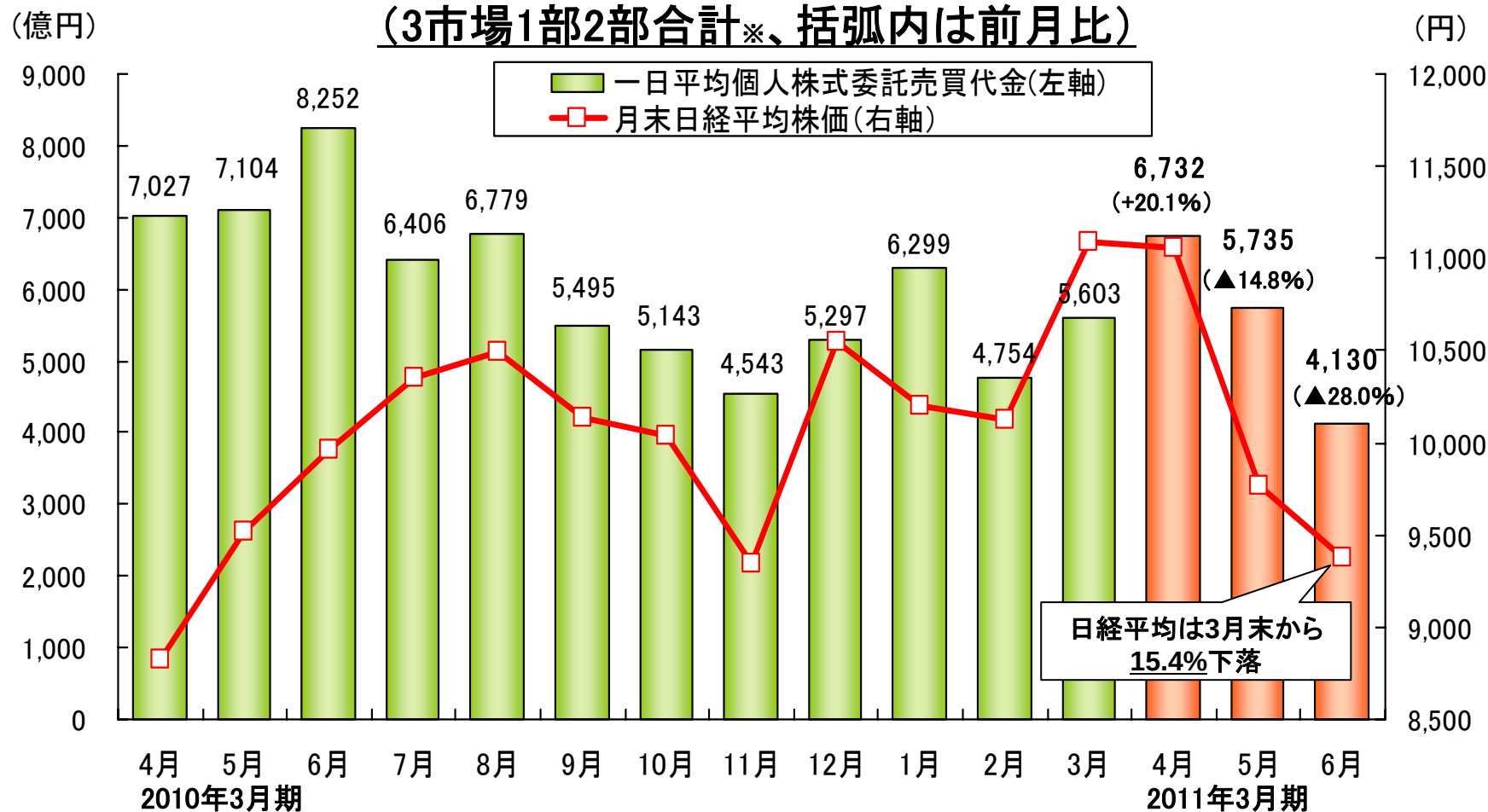
※ 億円未満を四捨五入した数字です。

一日平均個人株式委託売買代金は 2011年3月期に入り月を追うごとに軟調に推移

2011年3月期第1四半期の個人株式委託売買代金は、前四半期比4.6%減少

個人株式委託売買代金推移

(3市場1部2部合計※、括弧内は前月比)



※東京・大阪・名古屋証券取引所に上場している内国株券(マザーズ、ヘラクレス、セントレックス含む)

出所: 東証開示資料より当社作成

SBI証券 四半期連結業績推移

(2010年3月期1Q～2011年3月期1Q)

(単位:百万円、%)

	2010年3月期				2011年3月期	
	第1四半期 (2009年4～6月)	第2四半期 (2009年7～9月)	第3四半期 (2009年10～12月)	第4四半期 (2010年1～3月)	第1四半期 (2010年4～6月)	前四 半期比 増減率
営業収益	12,448	12,084	10,629	10,952	11,950	+9.1
純営業収益	11,516	11,095	9,747	10,033	10,964	+9.3
営業利益	3,781	3,718	2,555	2,400	3,468	+44.5
経常利益	3,862	3,560	2,648	2,274	3,607	+58.6
四半期純利益	2,300	2,098	1,561	1,351	※ 3,900	+188.6

※金融商品取引責任準備金戻入にて特別利益に2,022百万円計上

主要オンライン証券・リアル証券の 2011年3月期第1四半期 連結業績比較

(単位:百万円、%)

	営業収益	前年同期比 増減率	四半期 純利益	前年同期比 増減率
SBI証券	11,950	▲4.0	3,900	+69.6
楽天(非連結)	6,390	+5.7	2,045	+23.6
松井	6,177	▲9.7	2,027	▲4.3
マネックス	7,407	+20.7	1,212	▲14.2
カブドットコム(非連結)	4,042	▲5.9	1,040	▲1.6
野村HD	30日発表			
大和証券グループ	94,151	▲28.7	▲1,191	—(注1)

(データ出所:各社開示資料より当社にて集計)

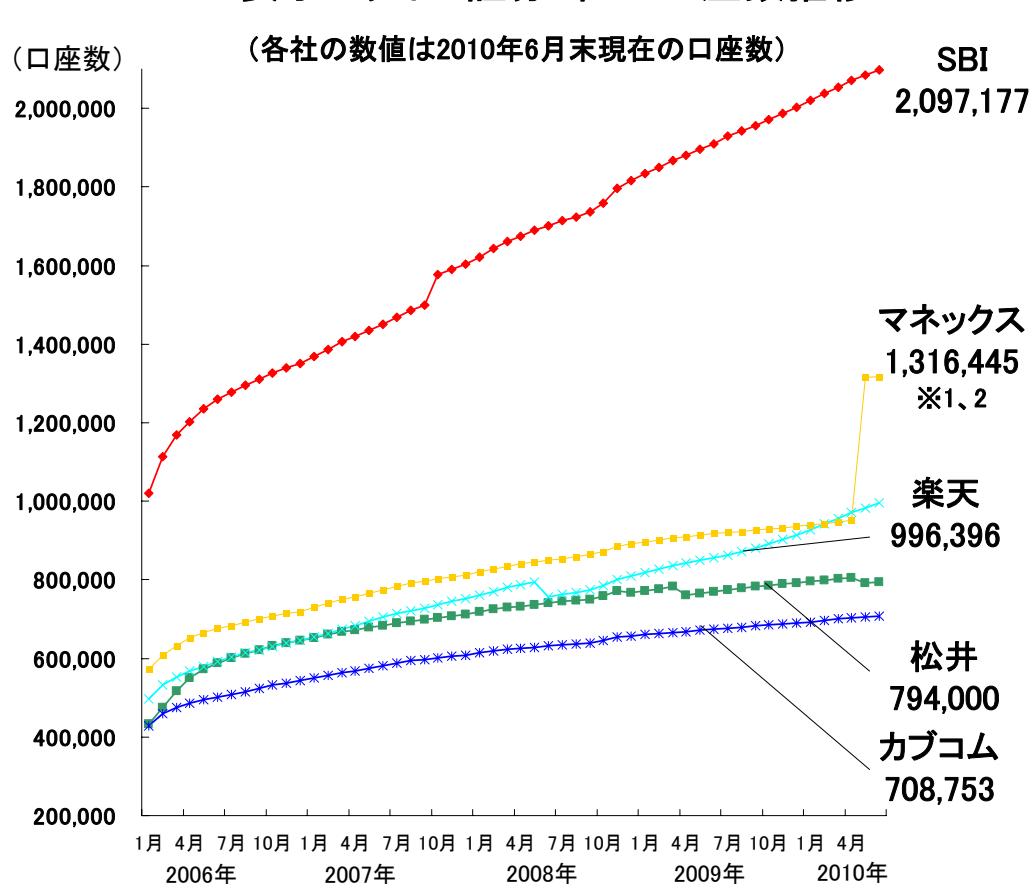
(注1)前年同期の四半期純利益は17,870百万円

強固な顧客基盤を有するSBI証券 ①

SBI証券の獲得口座数は順調に推移しており、2009年12月には
オンライン証券で初めて200万口座を突破

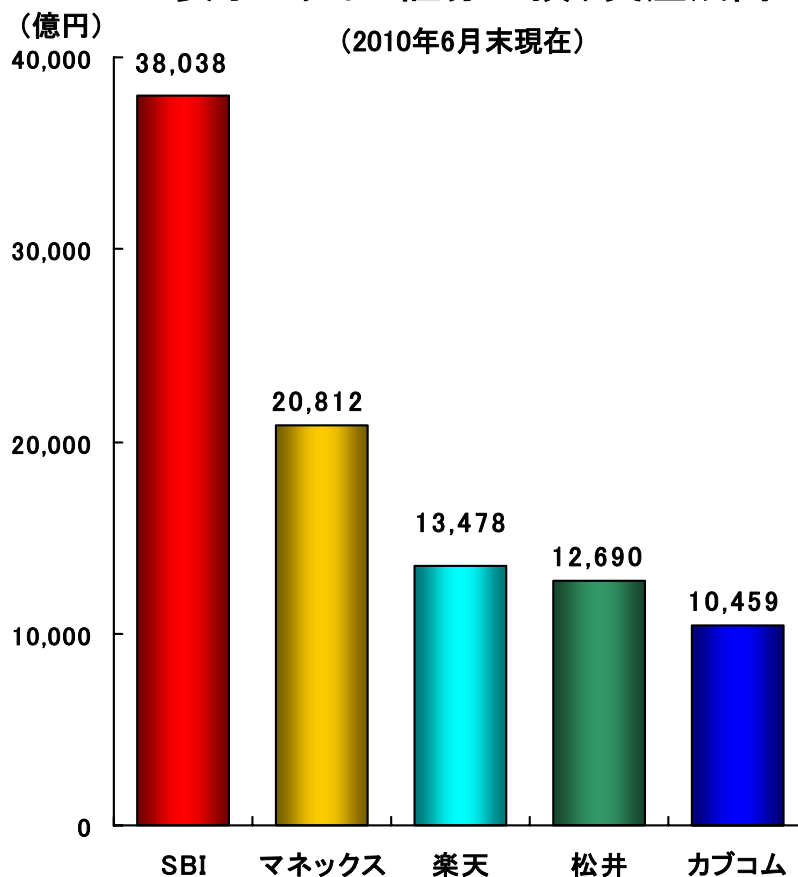
主要オンライン証券5社の口座数推移

(各社の数値は2010年6月末現在の口座数)



主要オンライン証券の預り資産残高

(2010年6月末現在)



出所: 各社ウェブサイトの公表資料より当社にて集計

※1 2010年5月以降のマネックス証券における口座数はマネックス証券と旧オリックス証券の単純合計で、重複口座(2010年6月末時点 約14万口座)を含む。

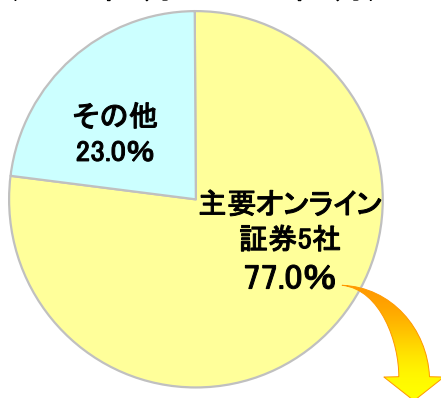
※2 旧オリックス証券の口座数は2009年12月末時点で372,347口座(2010年1月以降非開示)。

強固な顧客基盤を有するSBI証券 ②

SBI証券は個人株式委託売買および個人信用取引委託売買においても引き続き他社を大きく上回るシェアを誇る

個人株式委託売買代金シェア

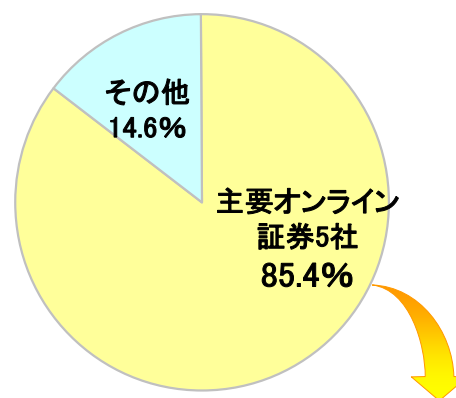
2011年3月期 1Qシェア
(2010年4月～2010年6月)



	シェア	前四半期比
SBI証券	38.3%	+3.1p
楽天証券	15.8%	+1.7p
松井証券	8.6%	+1.3p
マネックス証券	7.3%	+2.4p
カブドットコム証券	6.9%	+0.9p

個人信用取引委託売買代金シェア

2011年3月期 1Qシェア
(2010年4月～2010年6月)



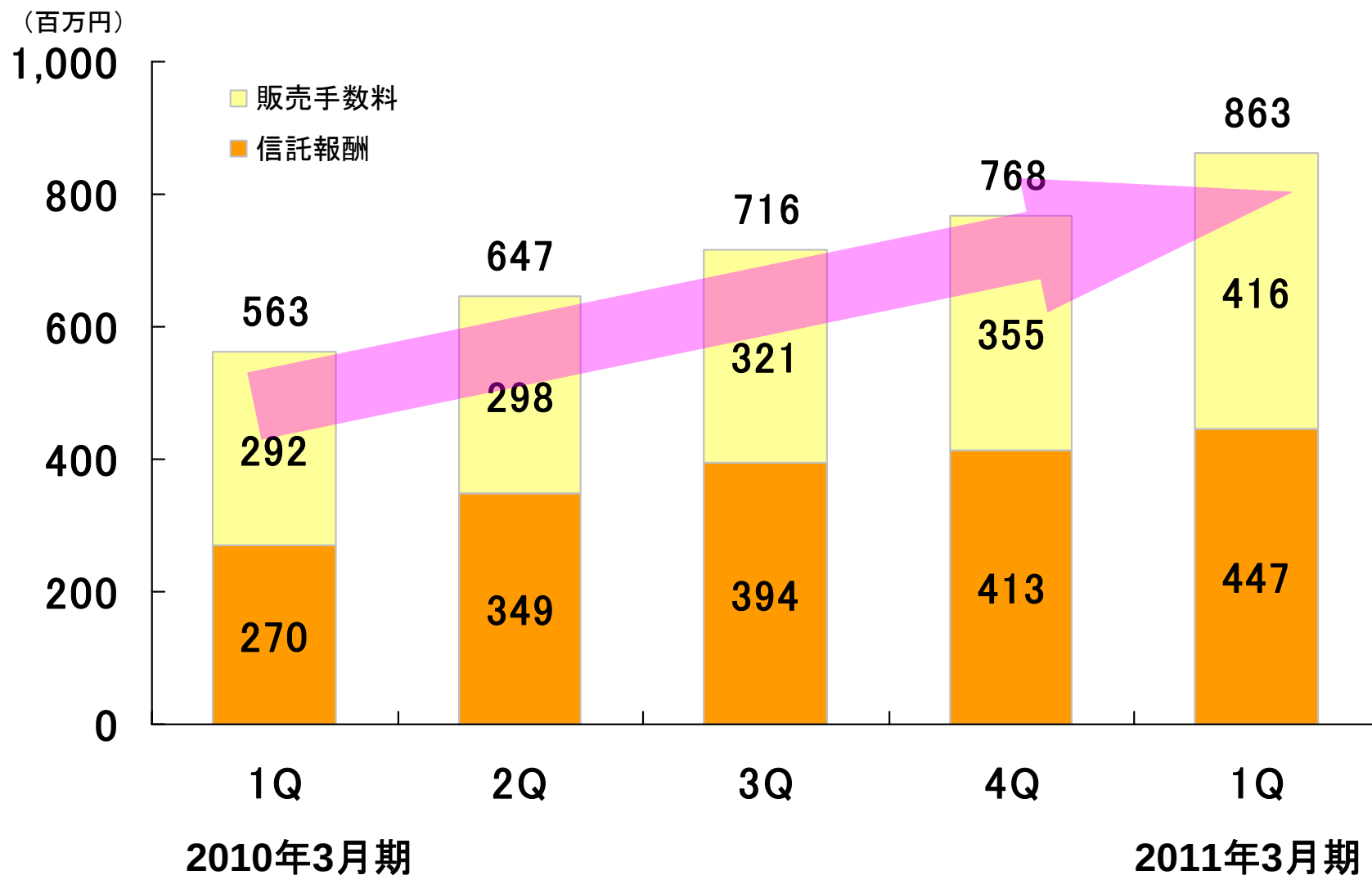
	シェア	前四半期比
SBI証券	42.4%	+2.6p
楽天証券	17.7%	+1.4p
松井証券	9.4%	+1.1p
カブドットコム証券	8.3%	+1.0p
マネックス証券	7.6%	+2.7p

出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ウェブサイトの公表資料より当社にて集計

※ 個人株式委託売買代金、個人信用取引委託売買代金は東証・大証・名証の各1部・2部とJASDAQを合算

※ SBI証券はインターネット取引のみで算出

SBI証券では投資信託への注力が奏功し、 投資信託関連収益は増加基調

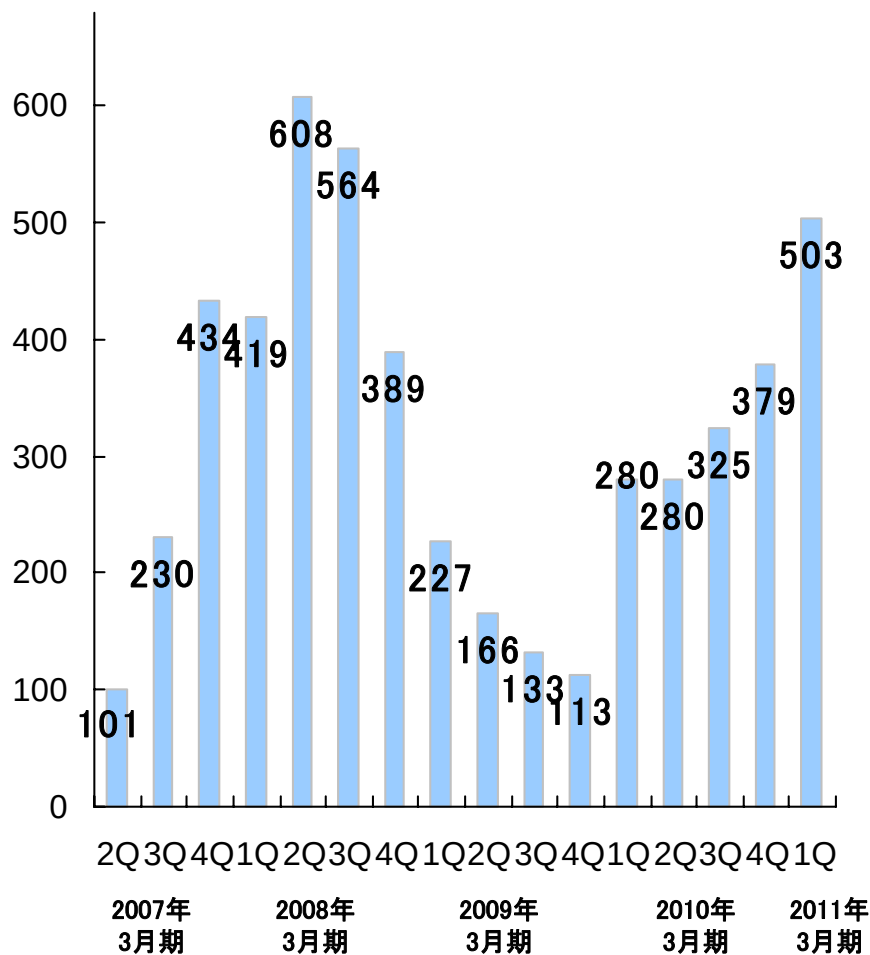


※1. 販売手数料及び信託報酬の合計(信託報酬には、MRFを含む。)

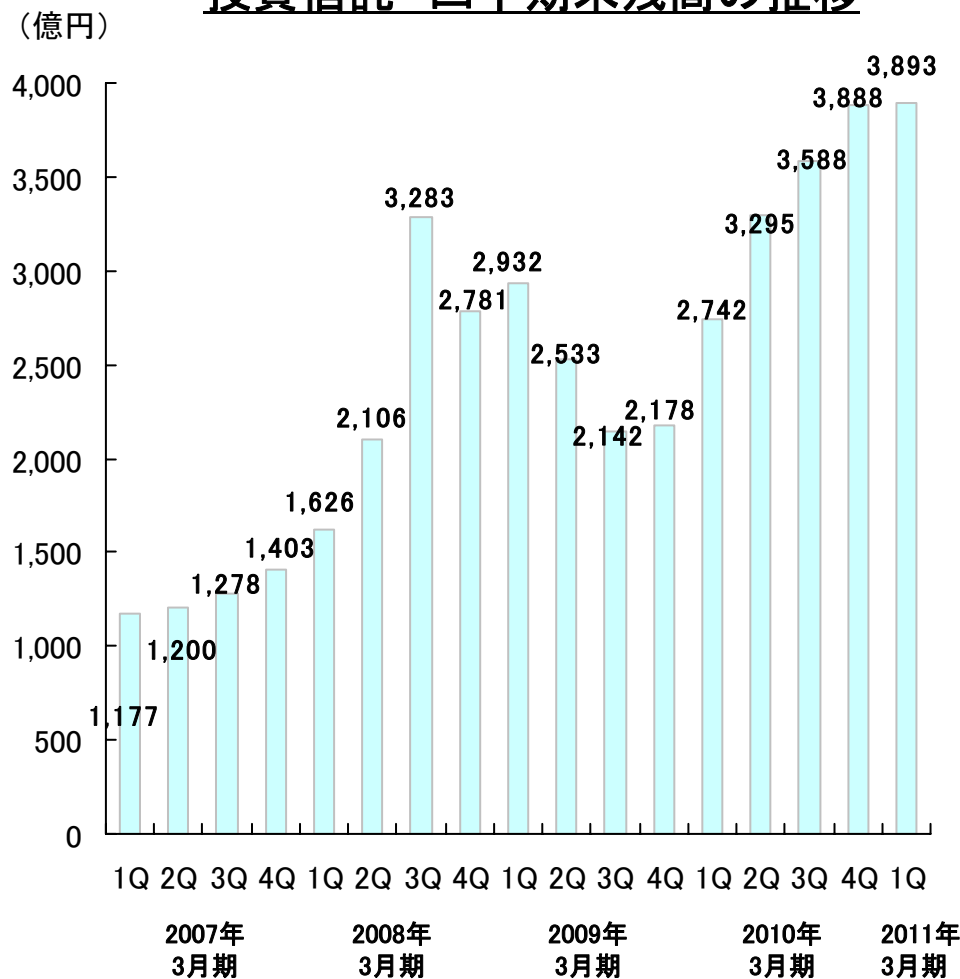
※2. 信託報酬は「その他の受入手数料」に含まれる

SBI証券 投資信託販売額ならびに残高の推移

(億円) 投資信託販売額(四半期)の推移



(億円) 投資信託 四半期末残高の推移



※MMF、中国ファンドを含む。

※MMF、中国ファンドおよび対面口座分の預りを含む

オンライン証券4社※1のFX取引売買代金の推移

SBIリクイディティ・マーケットの活用により
SBI証券におけるFX取引の売買代金は拡大

(単位:億円)

—◆— SBI —■— マネックス
-▲- 松井 -×- カブコム

オンライン証券各社の
外国為替保証金取引口座数

(2010年6月末現在)

SBI	156,604
マネックス ※3	142,988
松井	63,616
カブコム	34,027

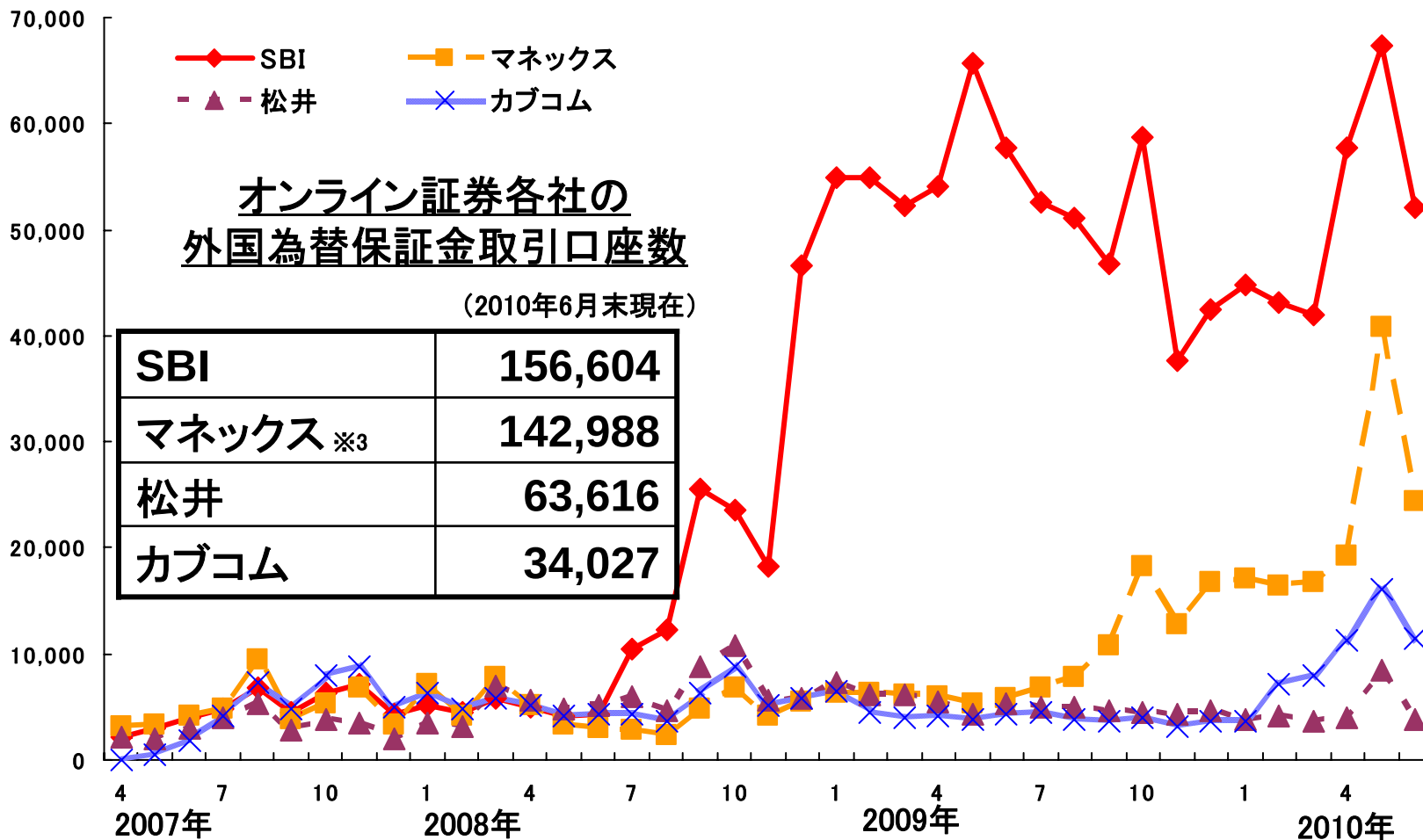
2010年6月の
売買代金:

SBI ※2
5兆2,155億円

マネックス
2兆4,428億円

カブコム
1兆1,431億円

松井
3,893億円



※1 SBI証券とデータが開示されているマネックス証券、松井証券、カブドットコム証券の計4社

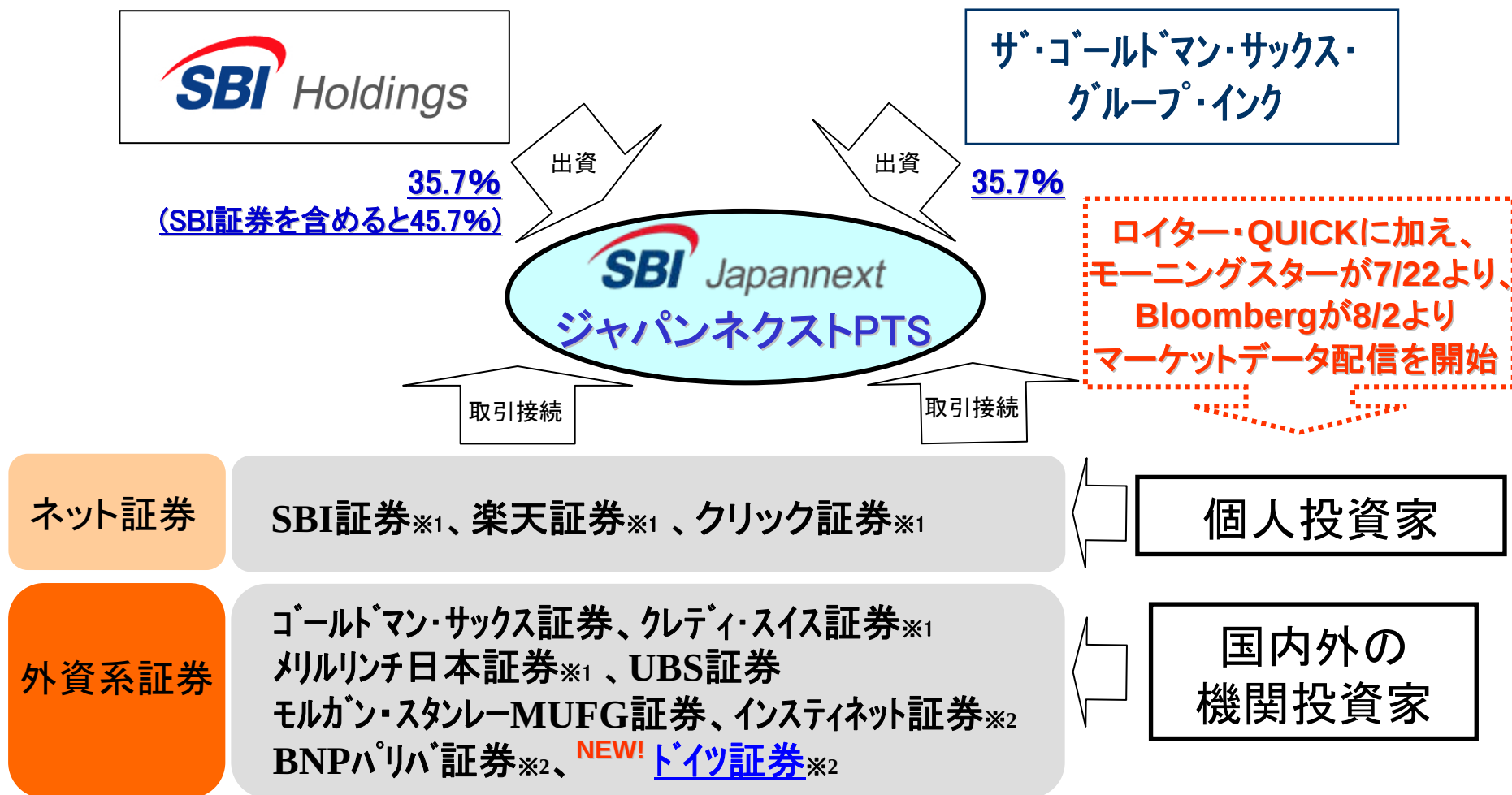
※2 2008年11月～2009年2月は、『SBI FX』及び『SBI FX α』の売買代金合計

※3 2010年6月末における外国為替証拠金取引の口座数には、重複口座を含む

出所: 各社ウェブサイトの公表資料より当社にて集計

新たな接続証券会社の参加により期待される ジャパンネクストPTSの取引拡大

～日系4社・外資系6社が今年度中の接続開始に向けてシステム準備中～



【ファイナンシャル・サービス事業】

2011年3月期 第1四半期

(前四半期比) (前年同期比)

売上高	72億円	▲5%	+18%
営業利益	5億円	+224%	+202%

- 上場子会社3社(モーニングスター、ゴメス・コンサルティング、SBIベリトランス)の業績は前期に底を打ち、いずれも前年同期比で増収増益を達成。前四半期比においてもSBIベリトランスは増収増益、モーニングスターは利益の全項目で増益に。

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 前四半期比および前年同期比は、セグメント変更を考慮して計算しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

2011年3月期第1四半期 上場子会社各社業績

- ・ モーニングスターは、主要顧客となる金融機関の広告・販促の売上増およびコスト削減等により前年同期比で単体・連結ともに増収増益を達成。連結経常利益は、リーマン・ショック前を上回る水準に回復。
- ・ ゴメス・コンサルティングは、金融機関を中心に受注が増加したことにより、前年同期比で売上高が大幅に増加。前期からの経費削減も奏功し利益は全項目で黒字転換となり、大きく回復。
- ・ SBIベリトランスは、EC市場の拡大などを背景に、トランザクション件数は前年同期比18.1%増の1,649万件と順調に増加。

(単位:百万円、()内は前期比増減率%)

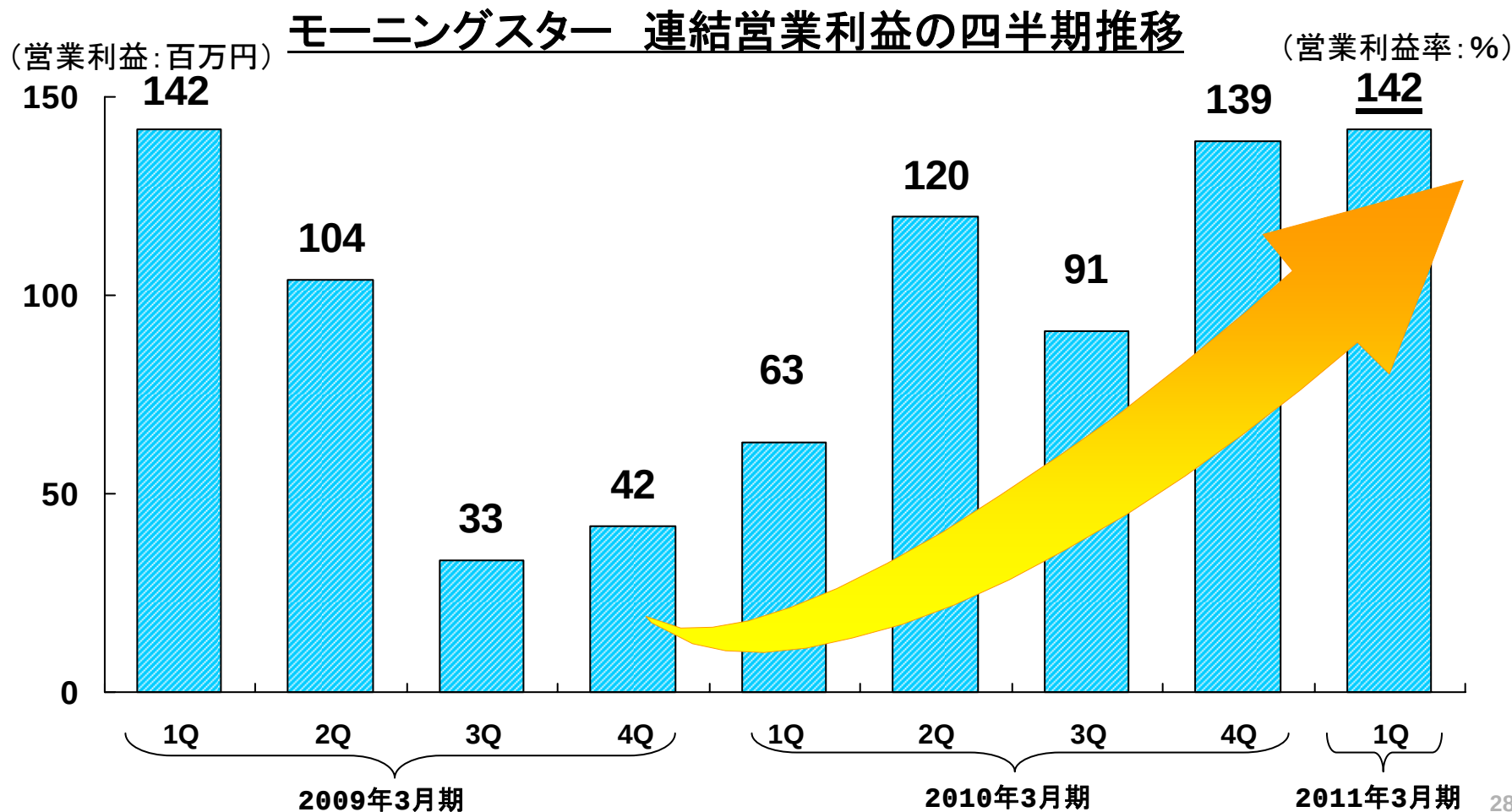
※1	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
モーニングスター	607 (+9.3)	142 (+125.9)	169 (+87.9)	94 (+94.3)
ゴメス・ コンサルティング	105 (+49.9)	6 (-) ※2	11 (-) ※2	9 (-) ※2
SBIベリトランス	1,383 (+12.6)	280 (+6.3)	282 (+6.5)	164 (+6.8)

※1 モーニングスター、SBIベリトランスは連結業績、ゴメス・コンサルティングは単体の業績を掲載しております。

※2 前年同期の営業損益は▲18百万円、経常損益は▲13百万円、四半期純損益は▲13百万円となっております。

モーニングスター 連結営業利益の四半期推移

モーニングスターの連結営業利益は前四半期(10.3期4Q)比2.3%増、
前年同期(10.3期1Q)比では125.9%増と大幅に回復

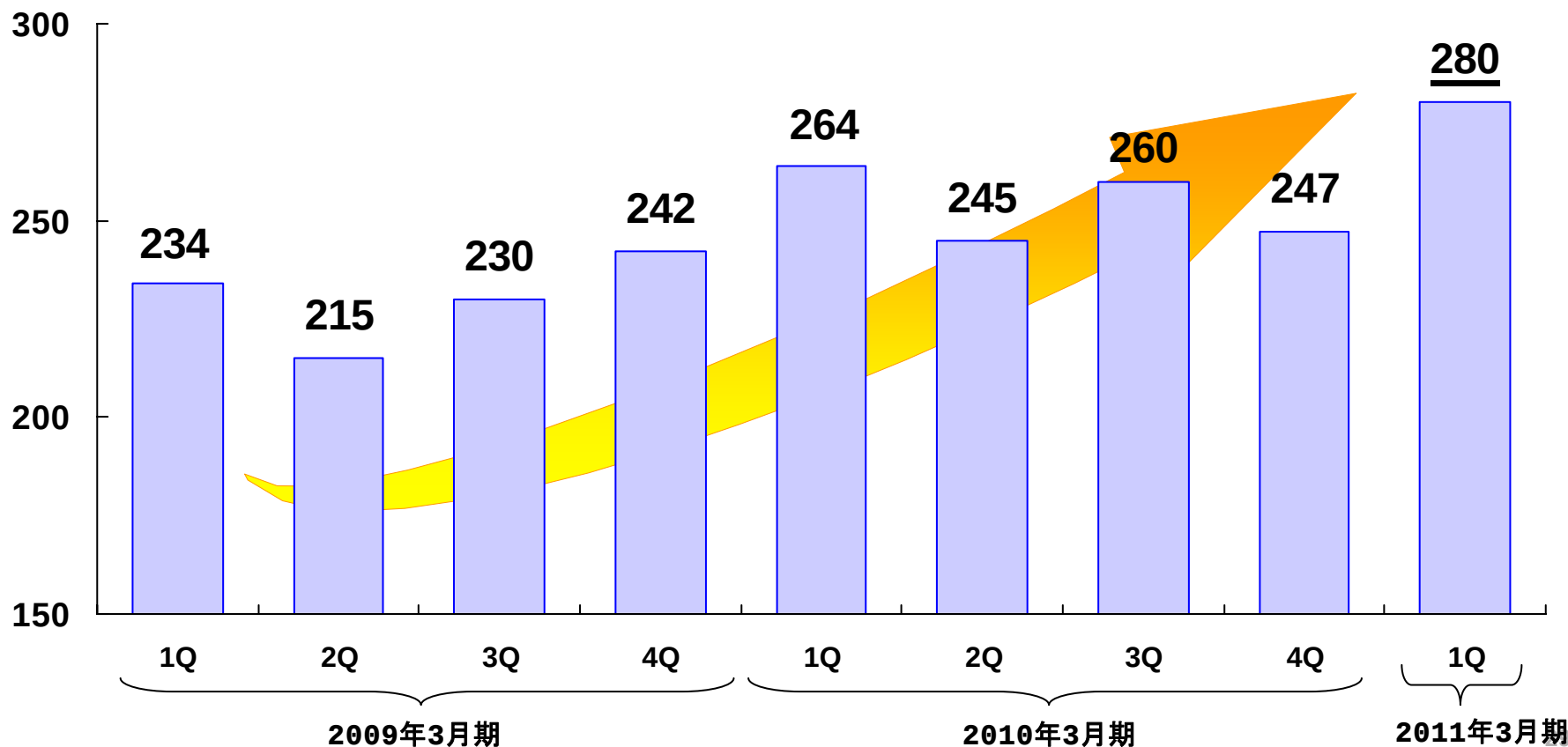


SBIベリトランス 連結営業利益の四半期推移

SBIベリトランスの営業利益は前年同期(10.3期1Q)比6.3%増、
前四半期(10.3期4Q)比では13.8%増と堅調に推移

SBIベリトランス 連結営業利益の四半期推移

(営業利益: 百万円)



【住宅不動産関連事業】

2011年3月期 第1四半期

(前四半期比) (前年同期比)

売上高	42億円	▲32%	+54%
営業利益	5億円	+11%	- (注)

(注) 住宅不動産関連事業の2010年3月期第1四半期の営業損益は▲1億円

- 国内不動産市場は引き続き厳しい事業環境ながら、中・小型物件を中心に回復の兆しが一部見え始めており、住宅不動産関連事業は2010年3月期第3四半期以降、四半期ベースで営業黒字を継続
- SBIライフリビングのインターネットメディア事業は引続き堅調に推移
- SBIモーゲージは住宅ローン実行残高を順調に積み上げ、2010年6月末現在では6,897億円と順調に拡大

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 前四半期比および前年同期比は、セグメント変更を考慮して計算しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

SBIライフリングは2010年3月期に黒字転換し、 2011年3月期第1四半期も前年同期比で改善

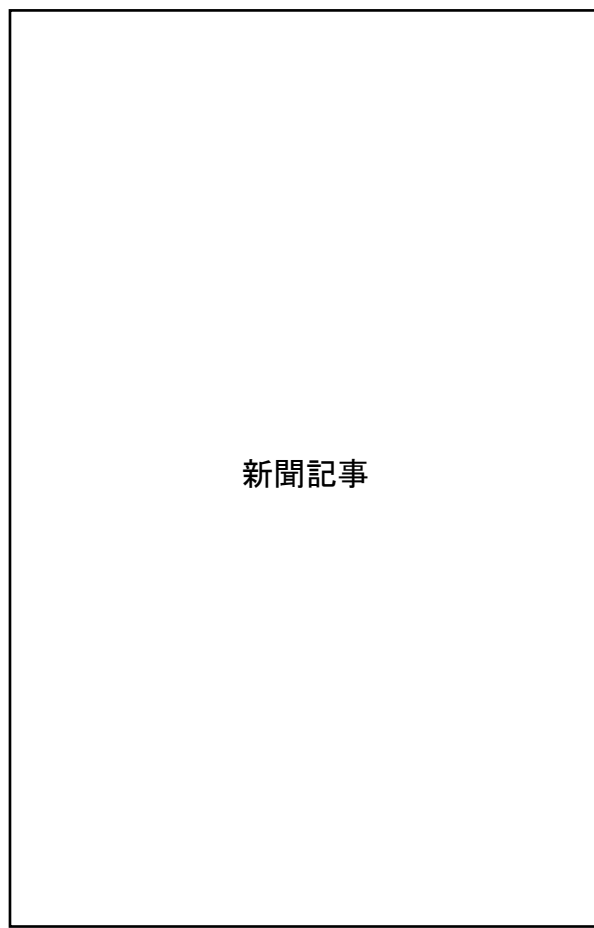
(単位:百万円、括弧内は前年同期比増減率%)

	2010年3月期				2011年3月期
	第1四半期 (2009年4～6月)	第2四半期 (2009年6～9月)	第3四半期 (2009年10～12月)	第4四半期 (2010年1～3月)	第1四半期 (2010年4～6月)
売上高	653	789	975	3,199	857 (31.3)
営業利益	▲172	103	107	131	42 (－)
経常利益	▲188	85	75	98	15 (－)
四半期純利益	▲189	85	83	48	▲34 (－)

物件売却、インターネットメディア事業が引き続き堅調に推移し、売上高及び利益ともに回復傾向。一方、資産除去債務に関する会計基準の適用、事業の一部譲受けにより生じたのれんに対する繰延税金資産の取り崩し等により四半期純損失に。

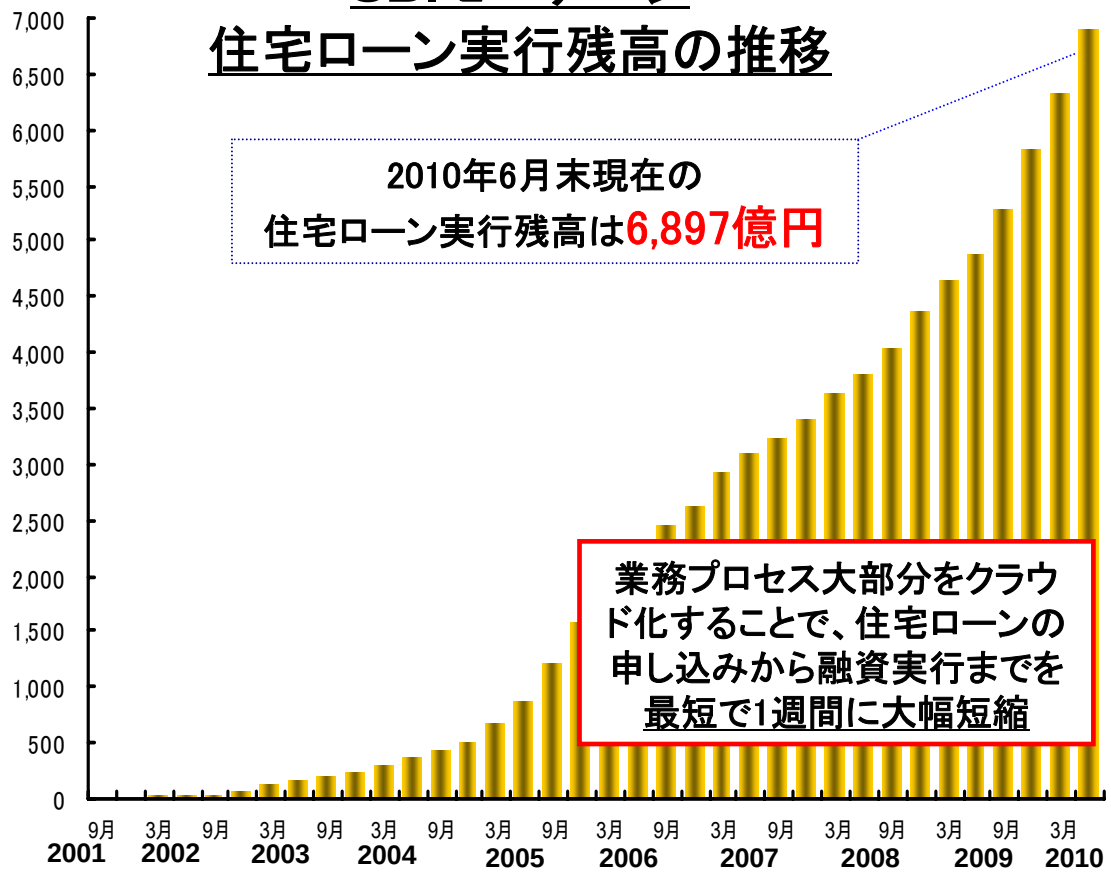
金利優遇策を追い風に残高を一層拡大させるSBIモーゲージ

4～6月のフラット35申込件数は
全取扱い機関で**前期比2.7倍**に



日本経済新聞 2010年7月13日 朝刊

SBIモーゲージ 住宅ローン実行残高の推移



- **2.320% (※)** という **最低水準の金利を提供**
(※) 買取型・借入期間21～35年の2010年7月融資実行金利(団信別)
- 2010年4～6月累計「フラット35」シェア: **16.7%**
全339取扱金融機関中 **第1位(16ヶ月連続)**
(SBIモーゲージ調べ。シェアは融資実行金額による, 含む保証型)

2. 2010年6月実施の公募増資について

- (1) 公募増資により強化された財務基盤
- (2) 調達資金を活用し、投資コストが低下している
新興諸国へ積極的に投資実行

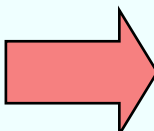
(1) 公募増資により強化された財務基盤

公募増資の概要

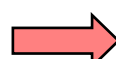
発行価格	1株につき 11,834円
発行株式数	3,112,000株
希薄化率	18.5%
手取金総額	353億円(6月23日入金)

一般募集ならびに売り出しによる合計株式数に対し約10倍、
海外機関投資家に限っては20倍超の需要があった

引き続き安定した財務基盤を維持し、 格付の向上を目指す

資本金ならびに資本準備金の変動		(連結、単位：億円)	
	2010年3月末		2010年6月末 (増資後)
資本金	552		<u>732</u>
資本準備金	2,189		<u>2,369</u>

SBIホールディングスの連結財務指標(%)

	10年3月末		10年6月末
有利子負債比率 ※1	58.2		54.7
自己資本比率 ※2	29.2		<u>30.1</u>

証券会社特有の資産・負債勘定の
影響を考慮した実質的な自己資本比率 43.9%



※1 有利子負債÷自己資本(株主資本+評価換算差額)で算出しており、100%以下※3が望ましいとされています。
なお有利子負債には証券事業に係る信用取引負債等は含んでおりません。

※2 自己資本(株主資本+評価換算差額)÷総資産で算出しており、30～50%※4が望ましいとされています。

※3 『財務会計』(斎藤静樹編著、有斐閣)における基準

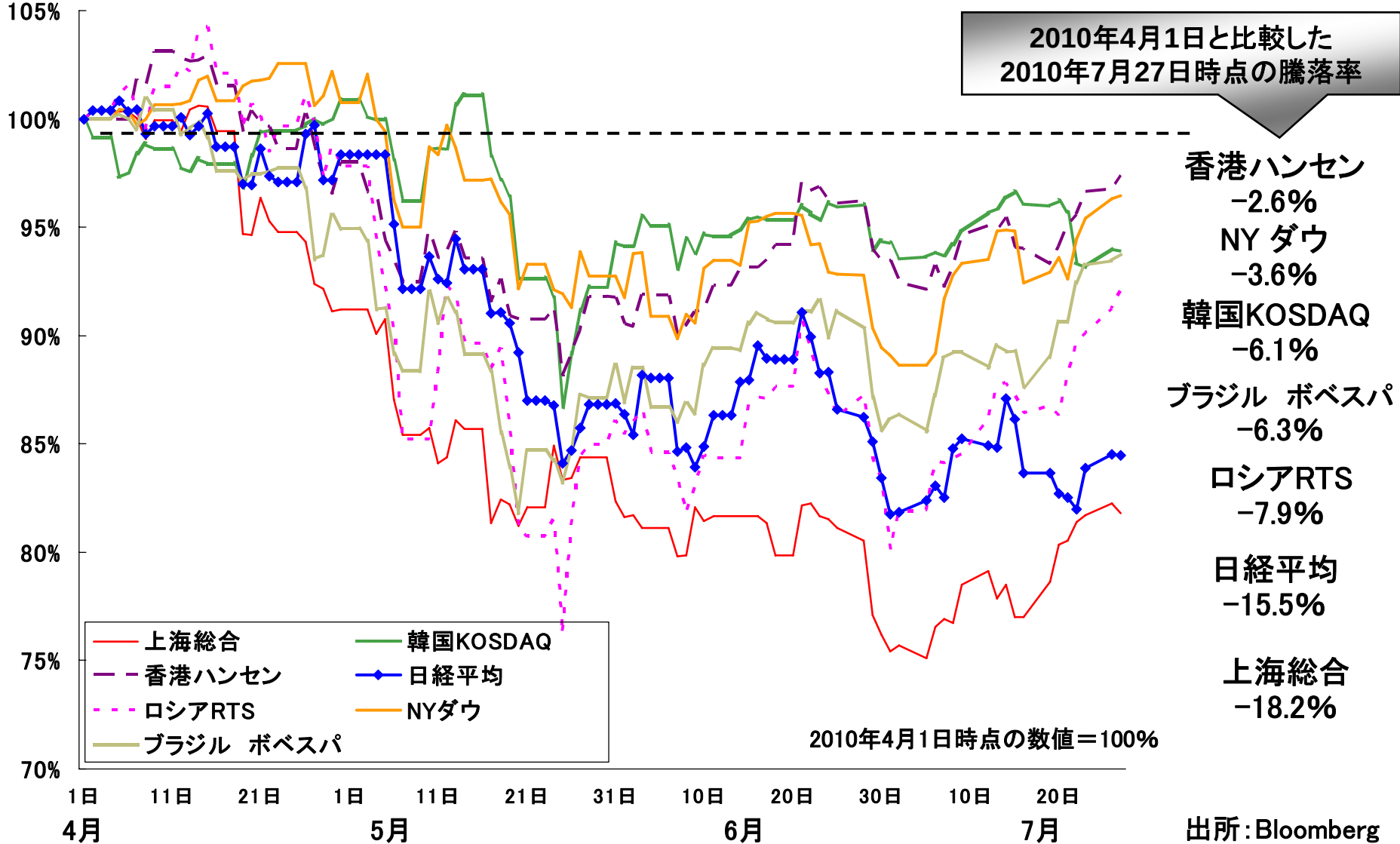
※4 『会社「経理・財務」入門』(金児昭著、日本経済新聞出版社)における基準

(2) 調達資金を活用し、投資コストが低下している 新興諸国へ積極的に投資実行

- ① 投資コストが低下している新興国において
投資を加速させるファンド事業
- ② 海外金融機関への出資

① 投資コストが低下している新興国において 投資を加速させるファンド事業

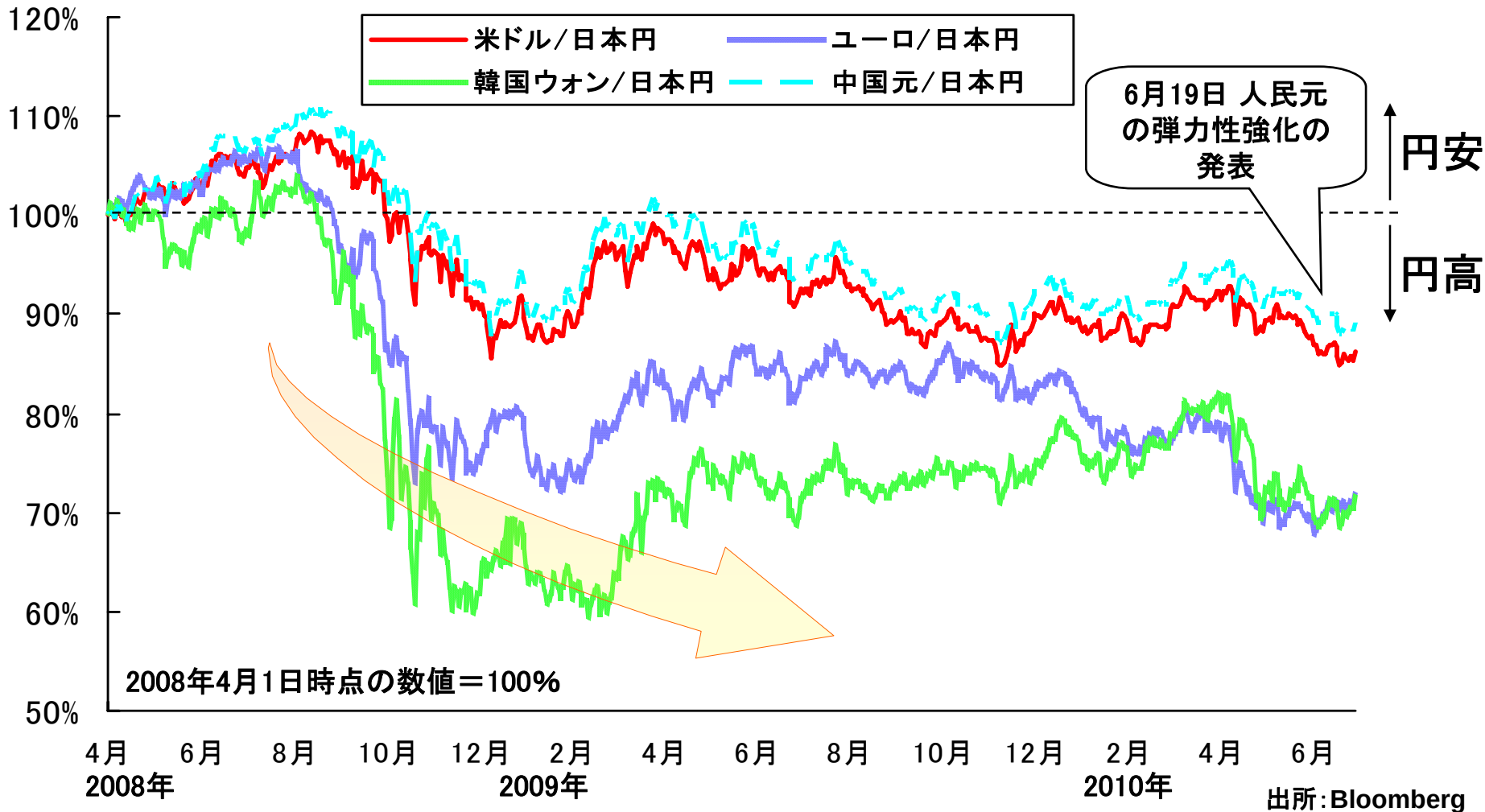
各国主要株価指数の推移 (2010年4月1日～7月27日)



欧州の債務危機の影響で世界各国の株価は下落

為替は円高に推移

08年4月1日～10年7月27日の為替レート推移



現在の円高環境は海外投資において絶好のタイミングとなる

今後投資を本格化するファンド:①ロシア



IFC METROPOL



 SBI Holdings

2010年5月にファンド設立完了、8月運用開始予定

SBI-METROPOL Investment Fund

【IFC METROPOLについて】

- 1995年3月に証券会社として設立
- 証券会社、資産運用会社、商業銀行、天然資源開発、リース会社、保険会社等を傘下に保有するなど多角的な事業を展開するロシア最大の総合金融サービスグループの一つ

【ファンド概要】

- 出資約束金: 100百万ドル
- SBIグループ出資比率: 50%
- 投資対象: ロシアの有望な未公開企業

今後投資を本格化するファンド:②マレーシア

PNB-SBI ASEAN Gateway Fund



PNB Equity Resource
Corporation Sdn. Berhad



SBI Holdings

8月運用開始予定

【ファンド概要】

- ・ 出資約束金: 50百万米ドル
- ・ SBIグループ出資比率: 50%
- ・ 投資対象: アセアン諸国、インド、中国の有望な企業



【PNB Equity Resource Corporation Sdn. Berhadについて】

マレーシア最大の国営運用機関 Permodalan Nasional Berhad(PNB)の100%子会社として1990年に設立され、PNBグループの中で主にエクイティ・ファイナンスに関わる業務を中心に事業を展開

今後投資を本格化するファンド:③ブルネイ イスラム圏における広範なネットワーク構築を 目的としたイスラム法適格PEファンド



ブルネイ=ダルサ
ラーム国・財務省



SBI Holdings

2010年7月にライセンスを取得、9月の運用開始に向け準備中



SBI Islamic Fund (Brunei) Limited

- 出資約束金:75百万シンガポールドル
(約54百万米ドル)
- SBIグループ出資比率:50%
- ブルネイ籍のファンド運用会社を共同で設立
- アジアを中心とした企業に対してイスラム法
適格投資を目的とした未公開株ファンドを運営

米国の投資銀行ジェフリーズグループとの 米国及びアジアの企業向け投資ファンドは8月の運用開始に向け準備中

新聞記事



Jefferies & Group, Inc.

グローバルに投資銀行業務
等を展開
(拠点数:アメリカを中心に世界
各都市25以上)

日本経済新聞 2010年6月29日 朝刊

米国企業向けファンド:「Jefferies-SBI USA Fund」

- ・投資対象:米国の有望な未上場企業
- ・出資約束金額:1億5,000万米ドル
- ・出資比率:SBIH50%、ジェフリーズ50%



アジア企業向けファンド:「SBI-Jefferies Asia Fund」

- ・投資対象:中国、インドなどの南アジアおよび東南アジア等の有望な未上場・上場企業。
- ・出資約束金額:5,000万米ドル
- ・出資比率:SBIH80%、ジェフリーズ20%

投資コストが低下した中で本格的に 海外ファンドの運用がスタート

【各ファンドへの追加出資予定額一覧(当社出資分)】

中国・台湾

ファンド名	追加出資予定額(百万円)
NHF1号	 投資終了
NHF2号(LP出資)	 1,467
NHF3号(LP出資)	 3,143
北京大学ファンド	 3,515
清華大学ファンド	 2,212
招商証券ファンド	 1,795
台湾ファンド	 1,269
中国・台湾 計	13,401

その他アジア地域(中国・台湾以外)

ファンド名	追加出資予定額(百万円)
India Japan Fund	 7,943
Vietnam Japan Fund	 4,509
Malaysia Fund	 2,192
SBI SOI Fund	 500
SBI Islamic Fund	 2,409
SBI-Jefferies Asia Fund	 3,508
アジア(中国・台湾以外)計	21,061

アメリカ

ファンド名	追加出資予定額(百万円)
Jefferies-SBI USA Fund	 6,577
アメリカ 計	6,577

ロシア・中東欧

ファンド名	追加出資予定額(百万円)
SBI-METROPOL Investment Fund	 4,385
Hungary Fund	 6,156
中東欧 計	10,541

海外ファンド合計で515億円の出資を今後3～4年で順次予定

※ 追加出資予定額は、各ファンドの出資約束金から投資残高を引いた額の当社出資分。為替換算レートは2010年7月28日時点

② 海外金融機関への出資

- i) セイロン商業銀行
- ii) 天安保険社
- iii) オビ銀行

i) セイロン商業銀行（スリランカ）への出資

2010年6月に発行済株式の9.99%を取得



セイロン商業銀行 (Commercial Bank of Ceylon PLC)

新聞記事

日刊工業新聞2010年6月10日朝刊

- 1920年に設立され、スリランカ国内に190の支店網（2010年3月末現在）を有する**民間最大の商業銀行**
- **バンクラデシュにも自社支店やATM網を展開し、現地銀行とも積極的に提携**
- コロンボ証券取引所上場、時価総額646億LKR（503.2億円、'10/7/28現在）※
- 2009年度の配当性向は41%

セイロン商業銀行2009年12月期（通期）の業績 ※

経常収益	: 436億LKR(339億円)	総資産	: 3,225億LKR(2,513億円)
当期純利益	: 42億LKR (33億円)	預金	: 2,347億LKR(1,829億円)
資本金	: 106億LKR(83億円)	ローン	: 1,786億LKR(1,392億円)

※ LKR=スリランカルピー 換算レートは1スリランカルピー=0.779円(2010年7月27日のレート)を使用

ii) 中国の損害保険会社「天安保険社」の 株式取得について

～2010年6月、中国当局の認可を取得～



2010年7月に株式取得
(出資比率:7.65%)

役員を1名派遣予定



SBIグループが有する保険事業
のノウハウ等を提供



天安保険社 (Tianan Insurance Co., Ltd.)

- ・収入保険料(2009年):70億元(約902億円) ※1元=12.89円にて換算
- ・支店数:中国国内32支店
- ・設立:1994年

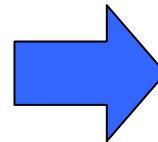


数年以内のIPOを目指す

新車販売台数が世界一となった中国では、今後の更なる自動車市場の拡大に伴い自動車保険市場の拡大が見込まれる

iii) ロシアの商業銀行への出資

ファンド事業のパートナーでもあるMETROPOL社傘下のOBIBANKへの50%出資について基本合意済



50%出資



ロシアでのオンラインバンキング事業に参入予定

SBIグループが日本で培ったオンラインバンキング事業のノウハウ等を活用することで、システムの安全性・安定性に優れ、より利便性の高いオンラインバンキング・サービスを提供



3. 規模の拡大から、利益成長重視の 第2ステージに入ったグループ経営

- (1) 創業以来10年間のグループ拡大期における
「複雑系の科学」による組織観
- (2) 当社の1株当たり当期純利益(EPS)の
成長を重視した第2ステージ

(1) 創業以来10年間のグループ拡大期における 「複雑系の科学」による組織観

「複雑系の科学」による組織観 (Complexity Knowing)

「複雑系の科学」の二大命題

- 「全体は部分の総和以上である」
- 「全体には部分に見られない新しい性質がある」



単一の企業では成し得ないシナジー効果と相互進化による高い成長を可能とする「企業生態系」の構築が、インターネット時代において絶対的な競争優位性をもたらす

創業以来進めてきたグループ戦略により 金融生態系の構築はほぼ完成

創業から10年を経て

- グループ内にインターネットを主要チャネルとした証券・銀行・保険事業を有する世界的にみても極めてユニークなインターネット金融コングロマリットとなる
- アジアを中心とした有望な新興諸国において、現地有力パートナーとの連携による投資体制を構築
- 海外新興国への金融サービス事業の展開に向けた布石もほぼ打ち終わる



グループの規模拡大を優先した第1ステージが終了

SBIグループの顧客基盤



(単位:万)

主なグループ企業・事業部等		2010年6月末
SBI証券	(口座数)	209.7
SBIH インズウェブ	(保有顧客数)	345.4
イー・ローン	(保有顧客数)	95.6
上記以外の金融系サイト	(保有顧客数)	12.2
MoneyLook(マネールック)	(登録者数)	57.6
モーニングスター	(新ポートフォリオ登録者数)	5.9
SBIカード	(カード発行枚数)	7.8
住信SBIネット銀行	(口座数)	82.1
SBI損保	(累計成約者数)	17.0
オートックワン	(09年度利用者数)	128.0
生活関連サイト(チケット流通、ムスビー)	(登録会員数)	56.4
その他		67.7
合計		1,085.4

※ 2009年9月に定義の見直しを行ったため、2009年3月以前と2010年3月以降とは集計方法が一部異なります。

※ 各サービスサイトの性質上、複数の取引を行ってもユニークユーザーを認識しうる場合には重複を省く一方、グループ企業間における重複顧客はダブルカウントされています。

※ SBI損保の累計成約者数は、継続契約、継続期間満了、中途解約者数等の数字を除いた数字です。

(2) 当社の1株当たり当期純利益(EPS)の 成長を重視した第2ステージ

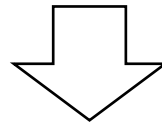
～荒削りの原石からブリリアントカットされたダイヤモンドへ～

第2の成長ステージに入ったSBIグループ

創業からの10年間

グループの規模拡大を優先した第1ステージ

規模の拡大と企業生態系の構築を最優先



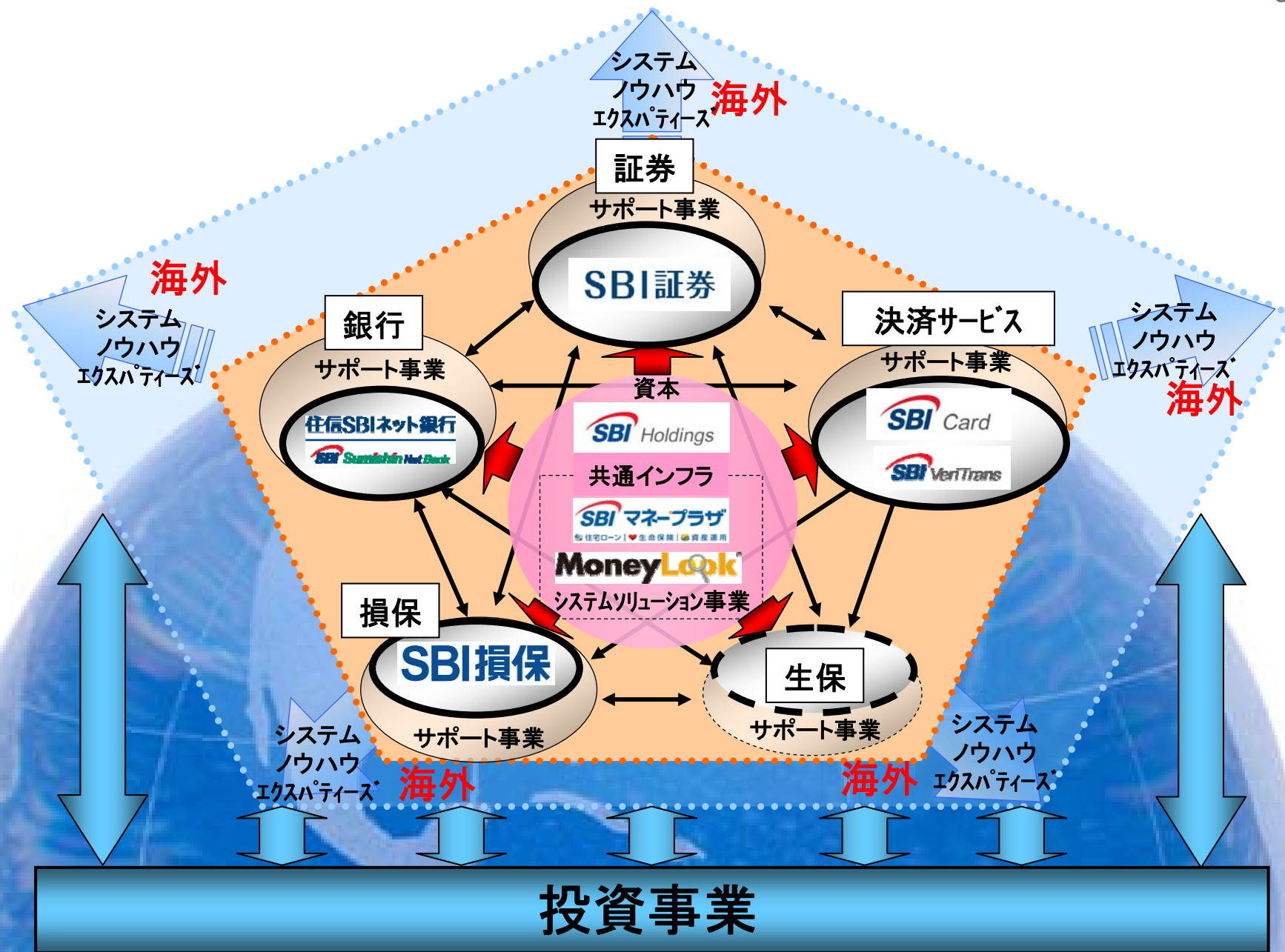
2011年3月期～

当社の1株当たり当期純利益(EPS)の
成長を重視した第2ステージ

- 「金融サービス事業のペンタゴン経営」推進による
グループシナジー強化と収益力の増強
- 海外新興諸国への金融生態系移出を進め、
「日本のSBIから世界のSBIへ」を具現化

EPSの持続的成長を目指した収益重視の経営へ

金融サービス事業におけるペンタゴン経営を推進



「ダイヤモンド経営」を踏まえたSBIグループの組織観

奥村綱雄氏（野村証券の戦後初代社長、中興の祖）

「ダイヤモンドは、中央の面を囲んで数面、十数面の面が多角的に集まってさん然たる光を放つ。このダイヤモンドのような経営でいく。ひとりの独裁でもない。多数の平等でもない。個は集まって全をなすが、この個は全あつての個であり、個あつての全では絶対はない。しかもその個が単に集まって全をなすのではなく、個によっておのずから職分があり、秩序もできる。この個の職分は、自らの勉強によって出来上がるが、これを決めるものは他の個ではなく、全体の全である。これが本当の意味のデモクラティックな経営形態であり、当社の歴史を貫く見えざる伝統の精神でもある。このダイヤモンド経営の精神は野村証券の憲法第一条として末永く伝えていく」



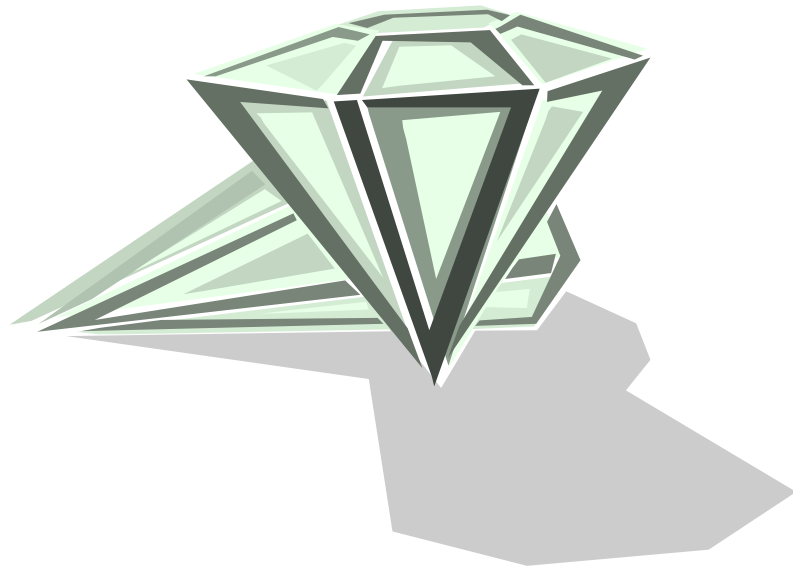
多様な人材がそれぞれ個性を発揮して輝く経営を目指した



ダイヤモンドの面 = 多様な企業・事業

SBIグループを「ブリリアントカット・ダイヤモンド」へ

17世紀にベネチアでその原型が開発された**58面体**のブリリアントカットは、1919年にベルギーの数学者マルセル・トルコフスキーによって、最も輝きを放つカットとして理論的に見出された。



ブリリアントカット：
磨きぬかれた上部の面より進入した光が
内部で屈折して上部から放たれ、
最も美しく輝くように設計されている



企業生態系に応用

適切な規模で企業生態系を形成することで、個々に輝きを放つ企業同士が結びつき、シナジー効果が発揮され相互進化がなされる。その結果、一つの企業生態系としての輝きを増す。

SBIグループの「ブリリアントカット化」を目指して①

SBIグループの現状

	2010年 6月末	追加 /除外	7月以降 見込	追加(除外)した会社・事務所等
SBIホールディングス	1	-	1	

連結子会社	75	4 -1	79 -1	KTIC, ジー・ワンクレジット、SBIレミット、ネット生保準備会社 イー・ゴルフ(7月に持分を売却)
連結組合	27	0	27	
連結子会社等 計	102		105	

持分法適用非連結子会社(注1)	1	0	1
非連結子会社(注2)	59	0	59
非連結組合	26	0	26
非連結子会社等 計	86		86

持分法適用関連会社(注3)	6	0	6	中国証券報社との合併会社
持分法非適用関連会社(注4)	17	1	18	
関連会社 計	23		24	

合計(SBIグループ全社数)	212		216
----------------	-----	--	-----

上記合計から連結／非連結組合を除いた会社数	159		163
-----------------------	-----	--	-----

主要事業部(注5)	5	0	5	ハノイ、クアラルンプール、モスクワ
海外駐在員事務所	2	3	5	

事業部ならびに事務所を加えた事業体数	166		173
--------------------	-----	--	-----

(注1) SBIジャパンネクスト証券

(注2) SBIアラブプロモ、SBI Hong Kong、SBI VEN CAPITAL、サーチナ、SBIオートサポート、SBIマネープラザ等

(注3) 住信SBIネット銀行、TIEN PHONG COMMERCIAL JOINT STOCK BANK、PHNOM PENH COMMERCIAL BANK等

(注4) SBI (B) Sdn. Bhd.(ブルネイ)、ウォール・ストリート・ジャーナル・ジャパン等

(注5) インズウェブ事業部、イー・ローン事業部、投資情報比較サイト事業部、ソリューション企画部、不動産事業部

SBIグループの「ブリリアントカット化」を目指して②

グループ全社から連結/非連結組合を除いた会社数に
事業部ならびに海外駐在員事務所を加えた事業体

173事業体

上記合计数より以下の要件にあたる115の会社等を除く

- ・海外事業拠点以外の海外持株会社およびファンド運用会社(GP) 28事業体
- ・孫会社(上記範疇を除く) 55事業体
(ただし、SBIベネフィット・システムズおよび上場会社である
ゴメス・コンサルティングを除く)
- ・ファンドからの出資比率が高いため連結子会社化している会社 2事業体
(セムコーポレーション、ホメオスタイル)
- ・本社機能を担う会社および資産管理を主たる業務とする会社 16事業体
- ・その他重要性の低い非連結子会社および関連会社 14事業体



SBIグループの主要な事業体： 58事業体

SBIグループの「ブリリアントカット化」を目指して③



SBIグループ 主要58事業体

SBIホールディングス

[2010年3月期(全社コスト含む)※ : ▲54億円]

黒字会社・事業部: 29社・事業部

[2010年3月期営業利益合計: 164億円]

(内、設立・買収から3年以内の会社 6社)

例) SBI証券、SBIインベストメント、住信SBIネット銀行、SBIリクイディティ・マーケット、SBIモーゲージ、SBIビジネスサポート、SBIリース等

赤字会社・事業部: 14社・事業部

[2010年3月期営業利益合計: ▲53億円]

(内、設立・買収から3年以内の会社 8社)

例) SBI損保、SBIカード、SBIオートサポート*、SBIゲオマーケティング*、SBIネットシステムズ* (*は今年度黒字化見込)

新設(予定含む)の子会社および新規買収子会社: 7社

[年間営業損失見込額: 7億円]

ネット生保準備会社、SBIレミット、ジー・ワンクレジット(10月にSBIクレジットに商号変更予定)、SBIプロスパー、KTIC、SBI Global Investment、中国証券報社との合併会社

海外現地法人および海外駐在員事務所: 7社・事務所

[年間運営コスト見込額: 7億円]

シンガポール現法、香港現法、北京、上海、ハノイ(新設予定)、モスクワ(新設予定)、クアラルンプール(新設予定)

今後3カ年の基本戦略

～規模の拡大から収益力強化へ～

➤ 黒字会社・事業部:

相互シナジーの発揮(とりわけペンタゴン経営の推進)により、
更なる利益拡大へ

➤ 赤字会社・事業部:

グループリソースを有効活用し、グループシナジーを更に追求することで、今後(新設会社は設立後)3年以内の黒字化を目指す

※黒字化目処の立たないものは清算或いは売却の方針

- ・会社設立: 現在設立準備中の会社以外に、新たな会社は設立しない
- ・買収: 黒字企業且つSBIグループの企業生態系に含まれる企業群と強いシナジーが期待されるものに限る

SBIグループの「ブリリアントカット化」を目指して④

(今後3カ年の基本戦略続き)

➤ 本社コストの更なる削減：

グローバルな税務管理や人事体系の見直し、全社的な販管費削減に向けた取り組みの継続等により、本社コストの削減を更に進める

➤ 海外事業について：

i) 海外ファンド事業

今後想定されるファンドへの出資※等は、原則として既存ファンドから回収した運用資金を再投資

※新規ファンドの設立は現在交渉中のブラジル、インド、インドネシア、アフリカの一部地域に限定

ii) 企業生態系の移植

銀行からスタートし、次いで証券、保険、為替事業を中心に、現地金融機関へのマイノリティ出資や現地パートナーとの提携事業を中心に進める

iii) 海外組織体制

海外組織の新体制を今後3ヶ月以内に発表予定

海外駐在員事務所は順次現地法人化を進め、独立採算を追求
コンプライアンス体制の強化等により、健全で収益力の高い組織を確立

① 開業から3年以内に黒字化した具体例

- i) 住信SBIネット銀行
- ii) SBIリクイディティ・マーケット

i) 住信SBIネット銀行

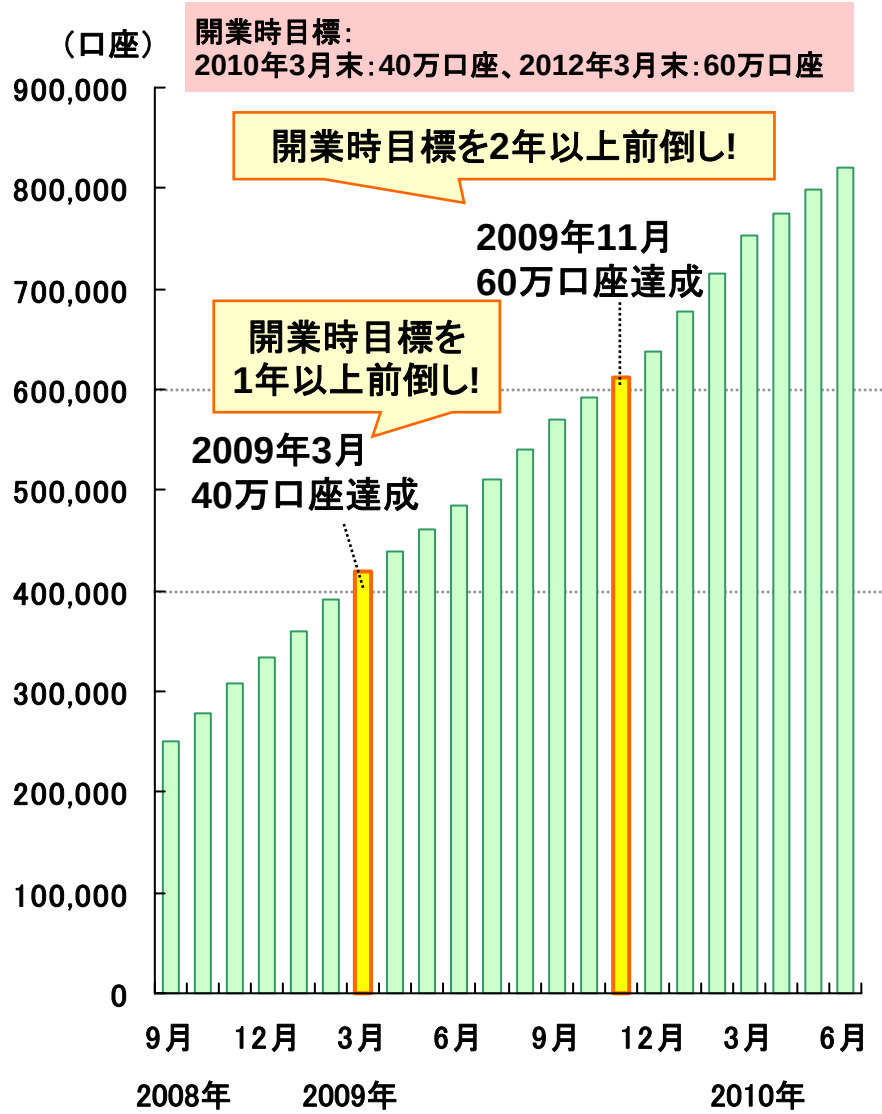
(2007年9月24日営業開始)

設立以来最速で成長するネット銀行

住信SBIネット銀行の口座数ならびに預金残高の推移

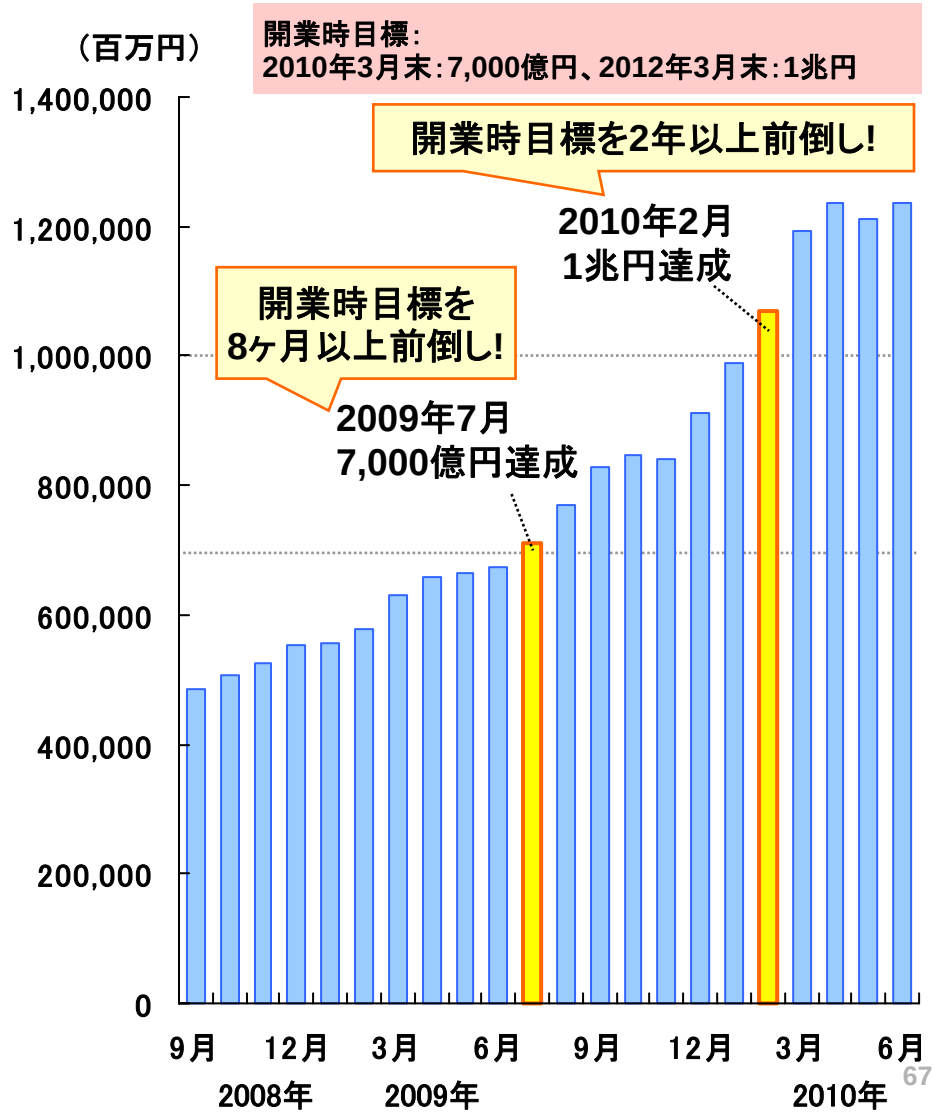
口座数の推移

2010年6月末: 820,511口座



預金残高の推移

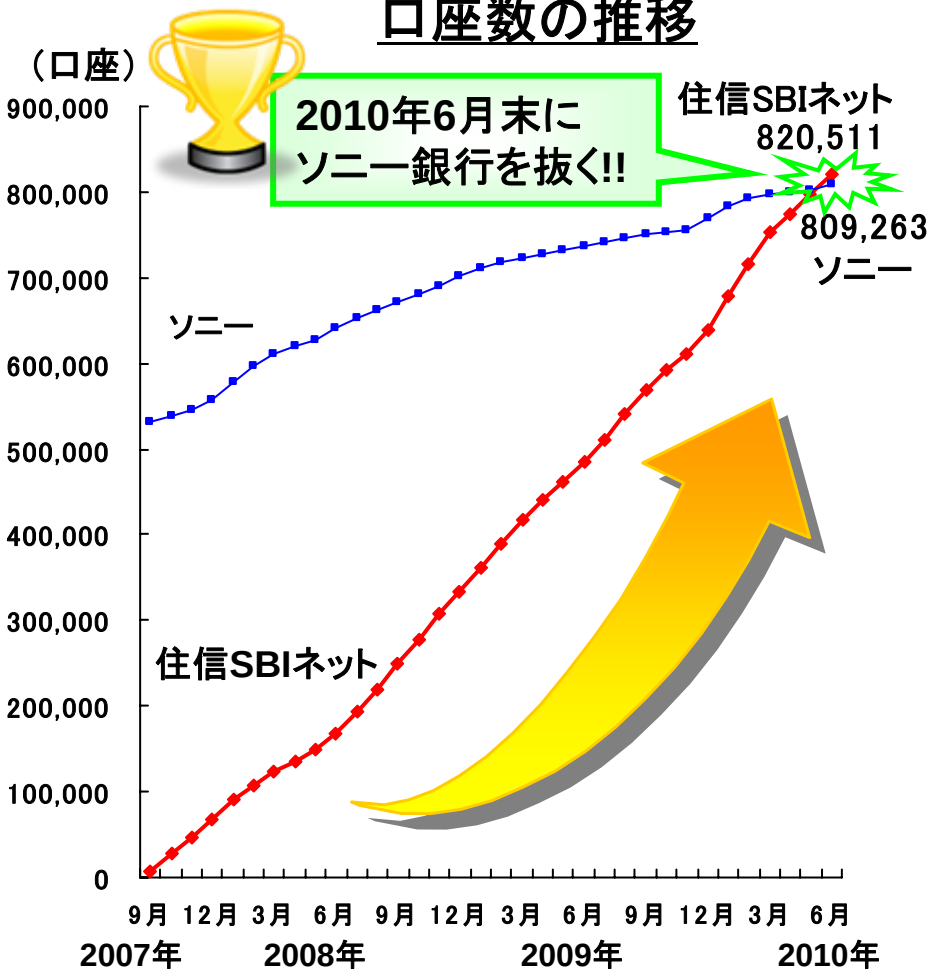
2010年6月末: 1兆2,346億円



住信SBIネット銀行の顧客基盤拡大の推移

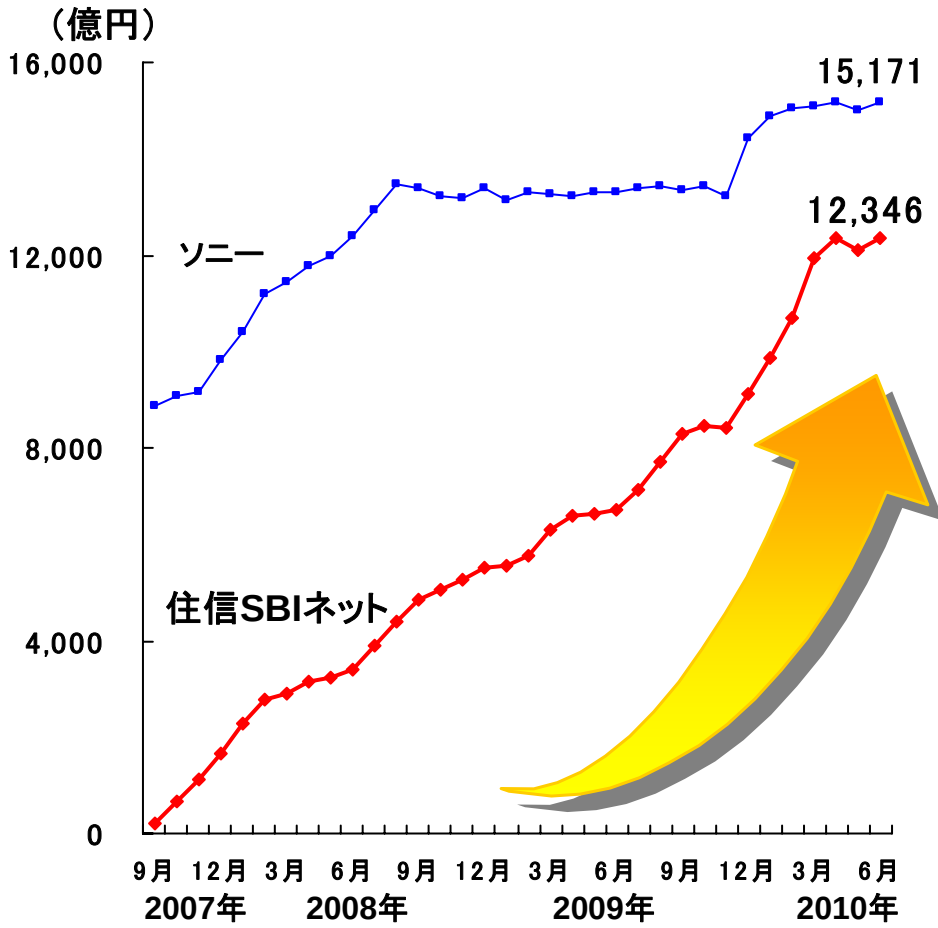
(2007年9月末～2010年6月末)

口座数の推移



7月27日時点: 840,383口座

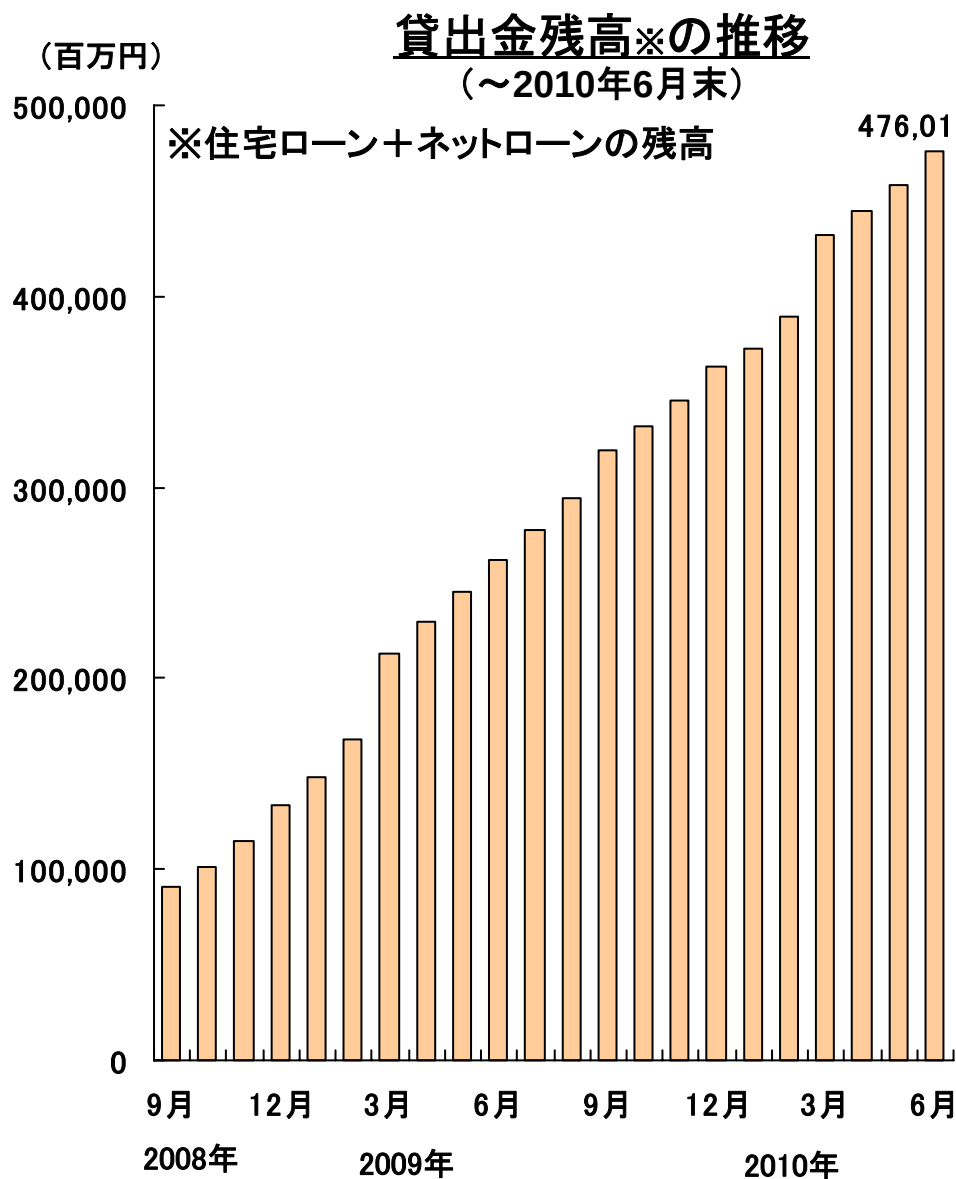
預金残高の推移



7月27日時点: 1兆2,792億円

住信SBIネット銀行は口座数・預金残高ともにこの1年間で約2倍に拡大

住信SBIネット銀行の貸出金残高推移



インターネット専業
銀行では最速!!

住宅ローン実行累計額※
は5,000億円を突破
(2010年7月20日)

住信SBIネット銀行が提供するインターネット
で取引する住宅ローンの特徴:

- ・変動金利タイプならびに固定金利特約タイプでの競争力のある金利の設定
- ・変動金利タイプと固定金利特約タイプの組合せが可能なミックス・ローンの取扱い
- ・8疾病保障の保険料は銀行負担
- ・一部繰上返済が1円から1円単位で可能。
また、一部繰上返済手数料は0円
- ・金利タイプ変更手数料が0円
- ・WEBと郵送でお手続きが完了

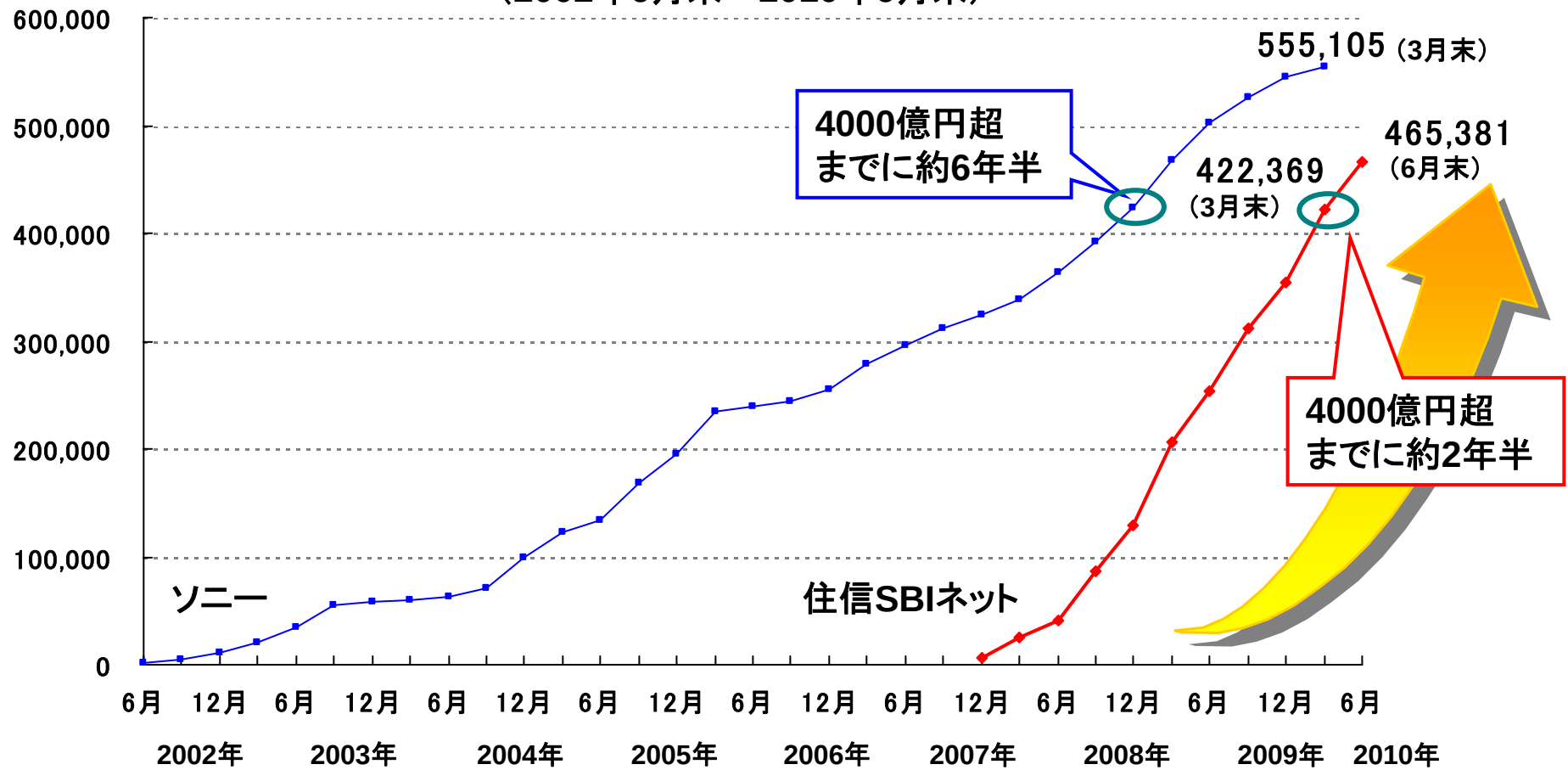
着実に残高を積み上げる住宅ローン

住宅ローン残高※の推移

※新規実行の累計額から返済分を控除

(2002年6月末～2010年6月末)

(百万円)

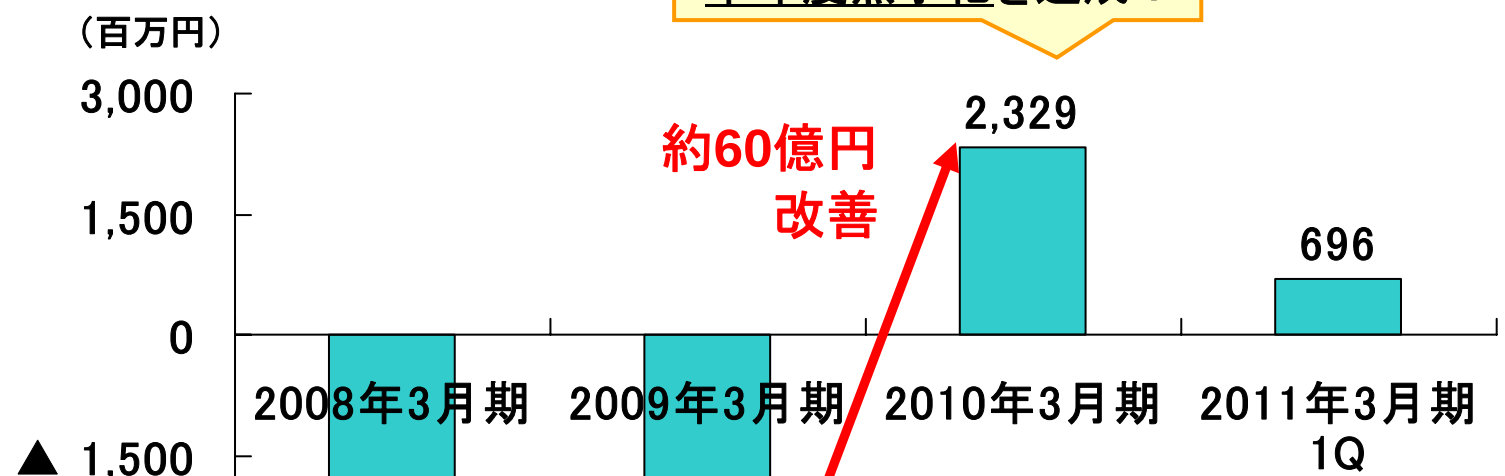


住宅ローンの残高も直近1年間で約2倍に拡大

住信SBIネット銀行の業績は 2011年3月期第1四半期も順調に推移

経常利益(単体)の推移:

単年度黒字化を達成！



2009年1月に初の単月黒字を達成。
2009年3月期4Qには四半期ベースでも初の黒字化(当期利益:1.35億円)を達成！

新中期経営計画目標
2013年3月期(2012年度): 経常利益100億円超

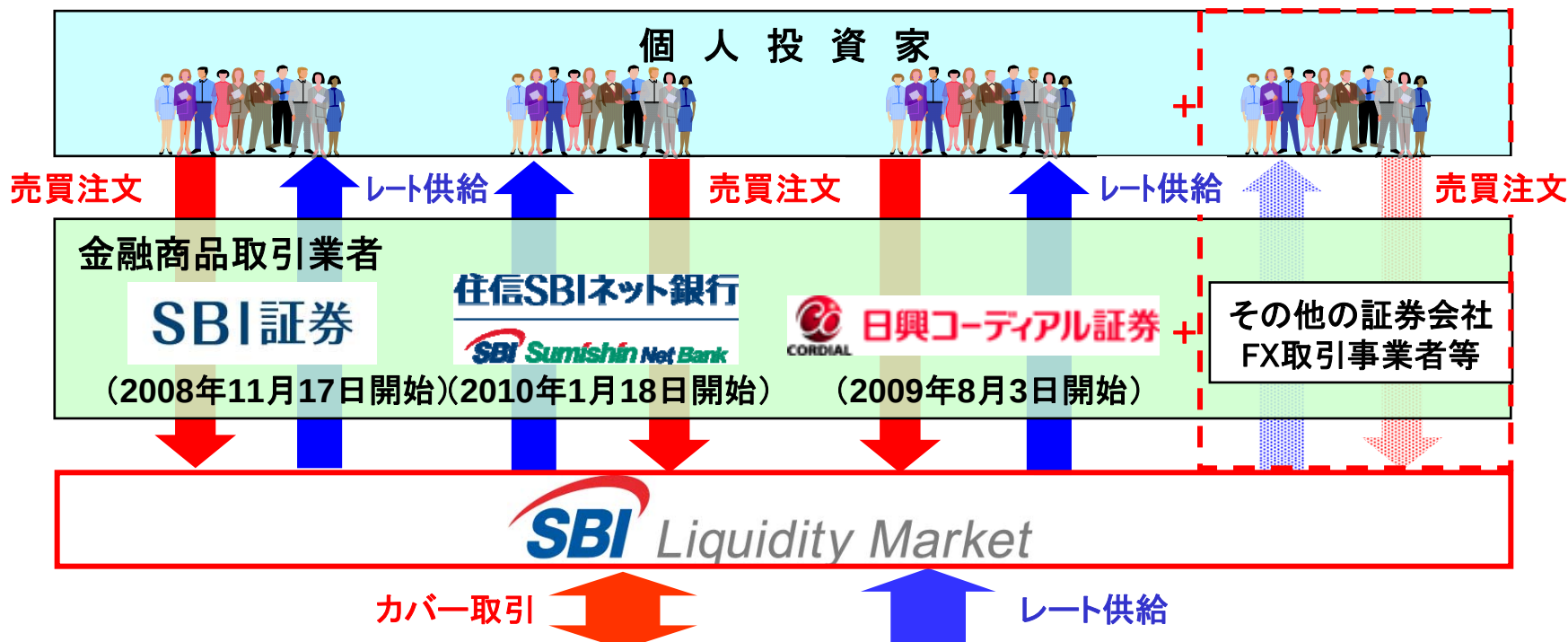
ii) SBIリクイディティ・マーケット

(2008年11月17日営業開始)

主としてSBI証券にマーケットインフラを提供

国内外の主要金融機関計20社(予定)※の カウンターパーティ群により、安定した取引機会を提供

(※ この他、1金融機関と交渉中)



カウンターパーティ(国内外の主要金融機関20社)

- | | | |
|-------------------|-----------------------------|----------------------|
| • クレディ・アグリコル銀行※1 | New ソシエテ ジェネラル(予定)※2 | • みずほコーポレート銀行※1 |
| • クレディ・スイス銀行※1 | • ドイツ銀行 | • 三井住友銀行 |
| • ゴールドマン・サックス証券 | • 野村證券※2 | • 三菱東京UFJ銀行 |
| • コメルツ銀行 | • バークレイズ銀行 | • モルガン・スタンレーMUFG証券 |
| • JPモルガン・チェース銀行 | • バンク・オブ・アメリカ※1 | • UBS銀行 |
| • シティバンク | New BNPパリバ※2 | • ロイヤルバンク・オブ・スコットランド |
| • スタンダード・チャータード銀行 | • 香港上海銀行※1 | |

※1. 2009年度から新たにカウンターパーティとして参加

※2. 2010年度から新たにカウンターパーティとして参加

SBIリクイディティ・マーケットの業績推移

(単位:億円)
2011年3月期

2010年3月期

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q
営業収益(売上高)	28.2	27.9	25.4	24.2	105.7	<u>28.8</u>
内、SBI証券の トレーディング益 (SBI証券:営業利益)	17.9	17.5	15.9	14.8	66.2	<u>17.1</u>
営業利益	8.6	8.4	7.5	6.3	30.8	<u>7.7</u>

接続する事業者の拡充により、
更なる流動性(取引量)の拡大と収益の増加を目指す

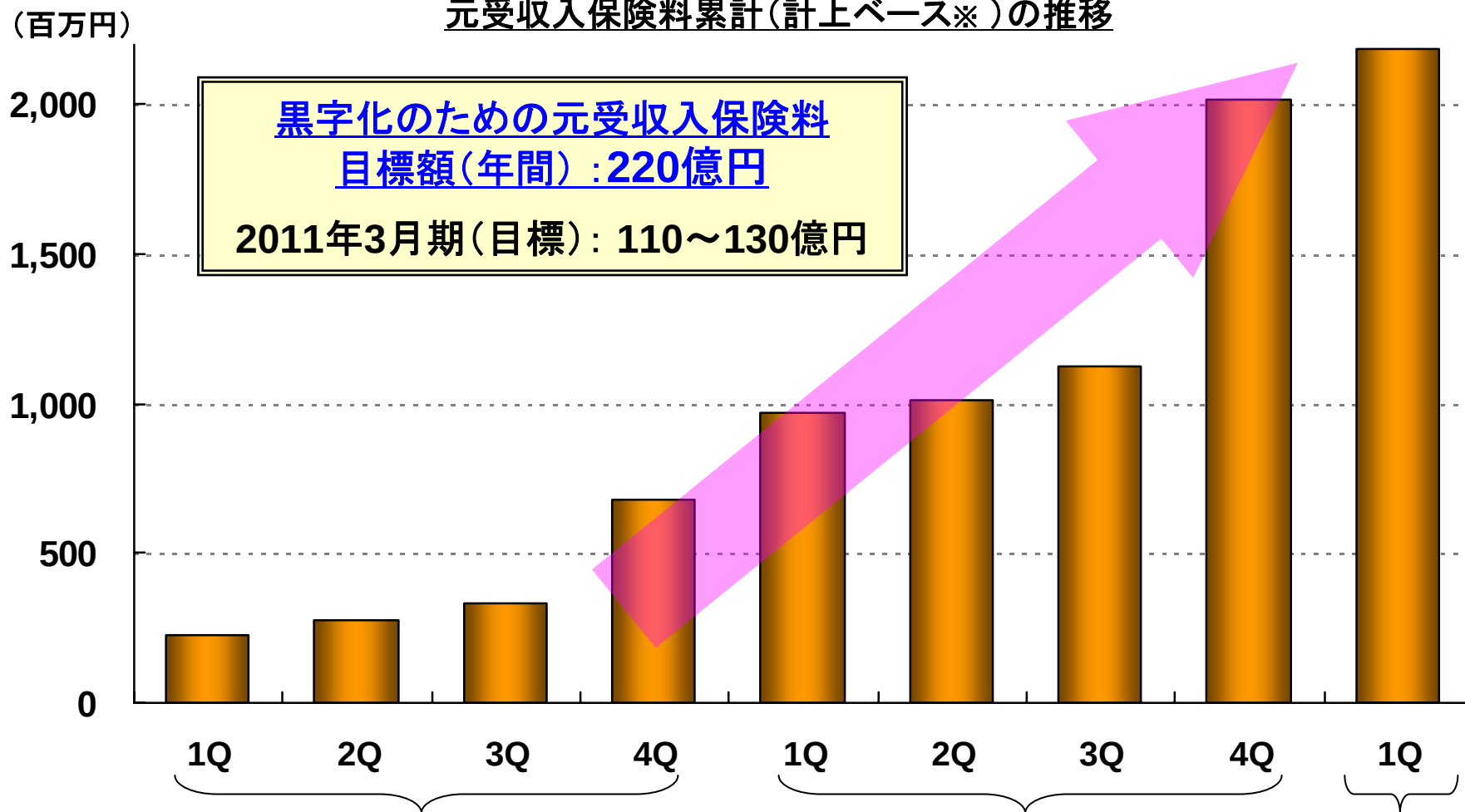
② 主な赤字子会社の事業概況

- i) SBI損保(2008年1月16日営業開始)
(今後2、3年で黒字化予定)
- ii) SBIカード(2年で黒字化予定)
- iii) ジー・ワンクレジットサービス(来期黒字化予定)
(2010年10月 SBIクレジットに商号変更予定)
- iv) KTIC(2010年7月6日子会社化)
SBI Global Investment(2010年6月1日子会社化)
(今年度中に黒字化予定)

SBI損保の元受収入保険料は順調に増加

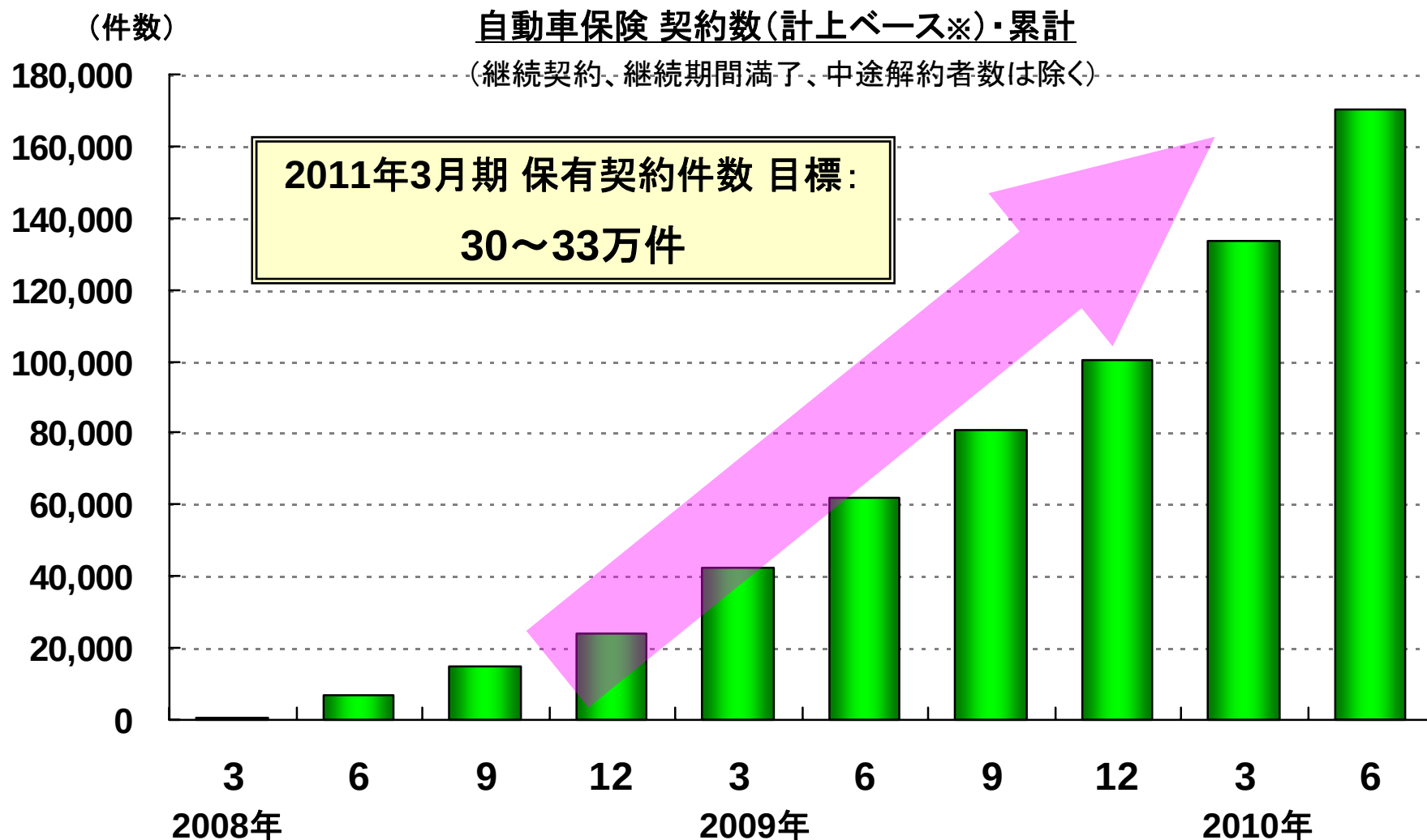
2011年3月期1Q(4月～6月)は前年同期比では126.3%増、
前四半期比でも8.6%増の約22億円となり、堅調に推移

元受収入保険料累計(計上ベース※)の推移



SBI損保の保有契約件数は17万件超と順調に拡大

2010年6月末現在、自動車保険の保有契約件数は17万件超に



※計上=保険料の入金完了

会員数の大幅拡大に向けたSBIカードの今後の展開

Visaブランド「GEO Ponta Visaカード」、「SBIカード Plus」の発行により、顧客基盤のさらなる拡大を目指す



: 顧客ニーズに着目した、業界トップクラス
最高1.2%のキャッシュバック還元率を誇る、高機能カード

2013年3月期の黒字化およびカード発行枚数100万枚に
向けた進捗・スケジュール(予定)

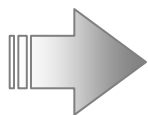
2009年2月 VISAカードのライセンス取得

2010年6月 「**GEO Ponta Visaカード**」の発行開始

申込み受付店舗は順次拡大し、11月(予定)より全国店舗での受付が
開始されることで、本格的な発行枚数の増加が見込まれる

2010年10月 「**SBIカード Plus**」の発行開始を予定

業界トップクラスのキャッシュバック還元率に加え、SBIグループ各社との取引
状況と、カード利用金額に応じて、最大2%を超えるポイント加算を行う予定



他のSBIグループ各社ユーザーのSBIカードへの誘導
およびグループ内取引の促進を図る

カード発行枚数は約7.7万枚(※)から3年後の100万枚を目指す

ガリバーグループの信販子会社、 株式会社ジー・ワンクレジットサービスの全株式取得



(2009年10月 包括的業務提携)

【スケジュール】

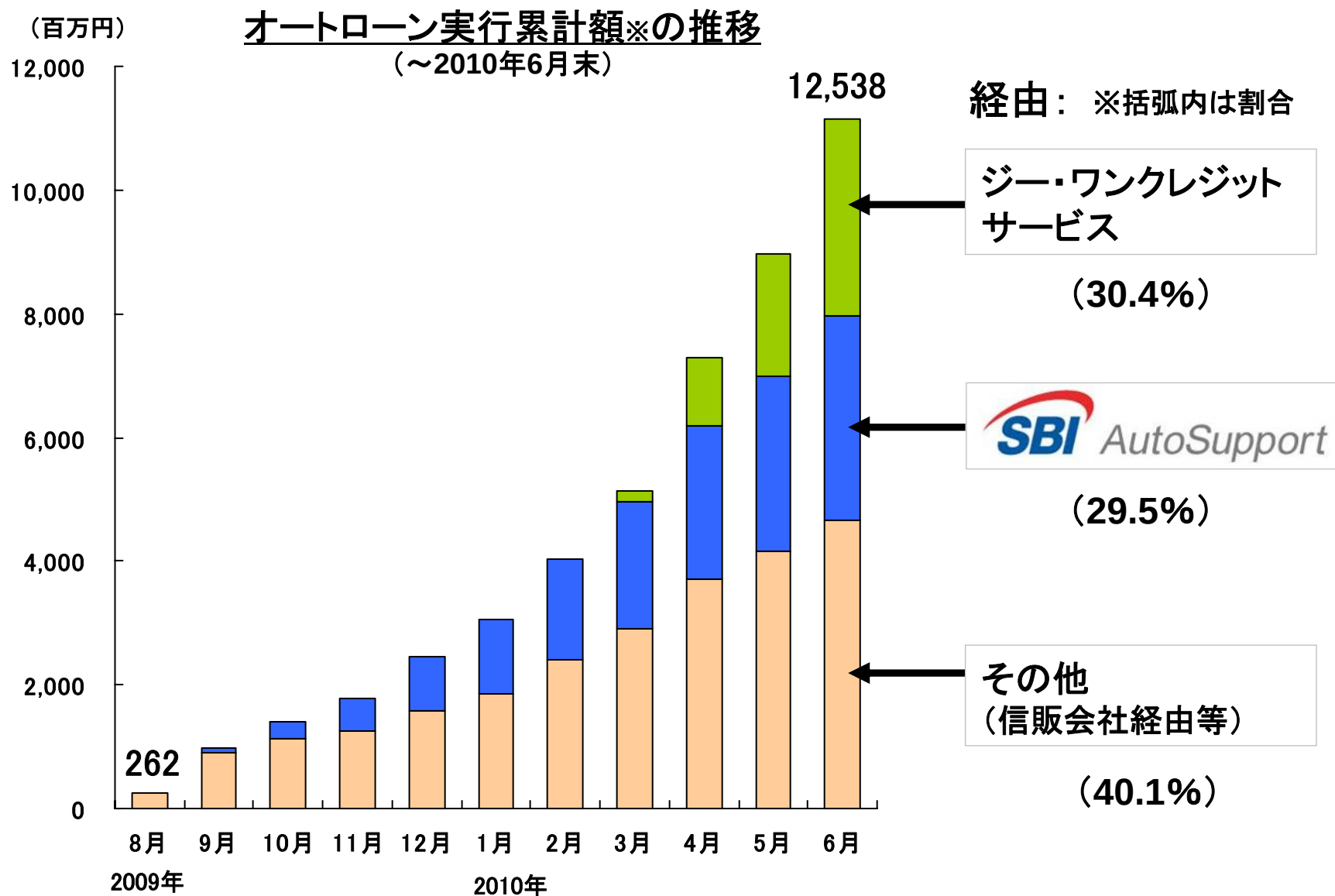
- ・2010年 7月 1日 ジー・ワンクレジットサービス株式譲受
- ・2010年10月 1日 「SBIクレジット株式会社」に商号変更(予定)

【今後の事業展開(予定)】

- ・ジー・ワンクレジットの強みである加盟店(現在約2千社)・拠点網(7拠点)を拡充し、提携自動車ローンの更なる拡大を目指す
- ・太陽光発電やオール電化等のクレジットなど、取扱金融商品の種類を順次拡充
- ・クレジットの利用者に対し、中古車の保証やSBIグループの提供する各種金融商品を提供

営業利益見込額 今期: ▲7億円 ➡ 来期: 3億円

住信SBIネット銀行のオートローンは順調に拡大



韓国のVCグループ2社の経営権を取得、連結子会社化

Korea Technology Investment Corporation (KTIC、韓国KOSDAQ上場)

- ・運用資産規模3,000億韓国ウォンを有する韓国のベンチャーキャピタル
- ・1986年に韓国初のVCとして設立され、KOSDAQ上場企業の約10%を育成
- ・設立来IRR(投資家利回り)平均は17%
- ・同社の株主割当増資および公募増資に応じ、7月に連結子会社化(子会社を通じて41.9%、運営ファンド持分を合わせると44.4%の持分を保有)

SBI Global Investment Co., Ltd. (韓国KOSDAQ上場)

(旧KTIC GLOBAL INVESTMENT ADVISORY CO., LTD)

- ・韓国金融市場で注目を集める金融商品であるSPAC※に注力
- ・同分野で200億韓国ウォン規模のファンド2本を設立済(8月以降に上場予定)であり、さらに1本のファンド設立を進めている
- ・同社の第三者割当増資に応じ6月に連結子会社化(子会社を通じて42.9%、運営ファンド持分を合わせると47.7%の持分を保有)



今後はアジア地域における投資事業を拡大

※ 特定目的買収会社(Special Purpose Acquisition Company)の略称で、企業買収を専門にする上場投資ファンド

※ 1億韓国ウォン = 718.6万円 (2010年7月21日時点)

KTIC、SBI Global Investmentの業績

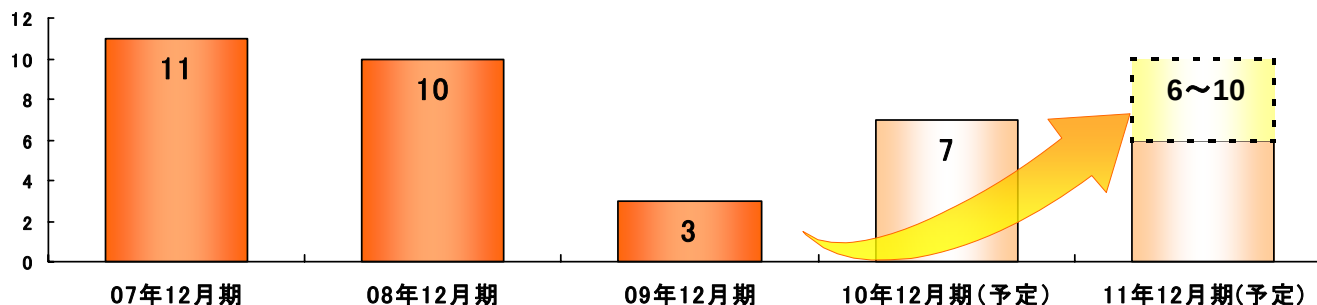
KTICの業績推移

単位: 億韓国ウォン

	2007年12月期 (通期)	2008年12月期 (通期)	2009年12月期 (通期)	2010年12月期 第1四半期(1-3月)
営業収益	543	222	341	59
営業利益	208	-185	-829	14

(参考)KTICのEXIT件数(IPO/M&A)

※KTICは12月決算



SBI Global Investment の業績推移 (旧KTIC GLOBAL INVESTMENT ADVISORY)

	2008年3月期 (通期)	2009年3月期 (通期)	2010年3月期 (通期)	2011年3月期 第1四半期(4-6月) 営業黒字の予定(未監査) 通期黒字化の見込み
営業収益	31	38	49	
営業利益	-13	-55	-200	

※SBI Global Investmentは3月決算

※ 1億韓国ウォン = 718.6万円 (2010年7月21日時点)

③ 本社コストの更なる削減

- ✓ 全社的な販管費削減に向けた取り組みは継続

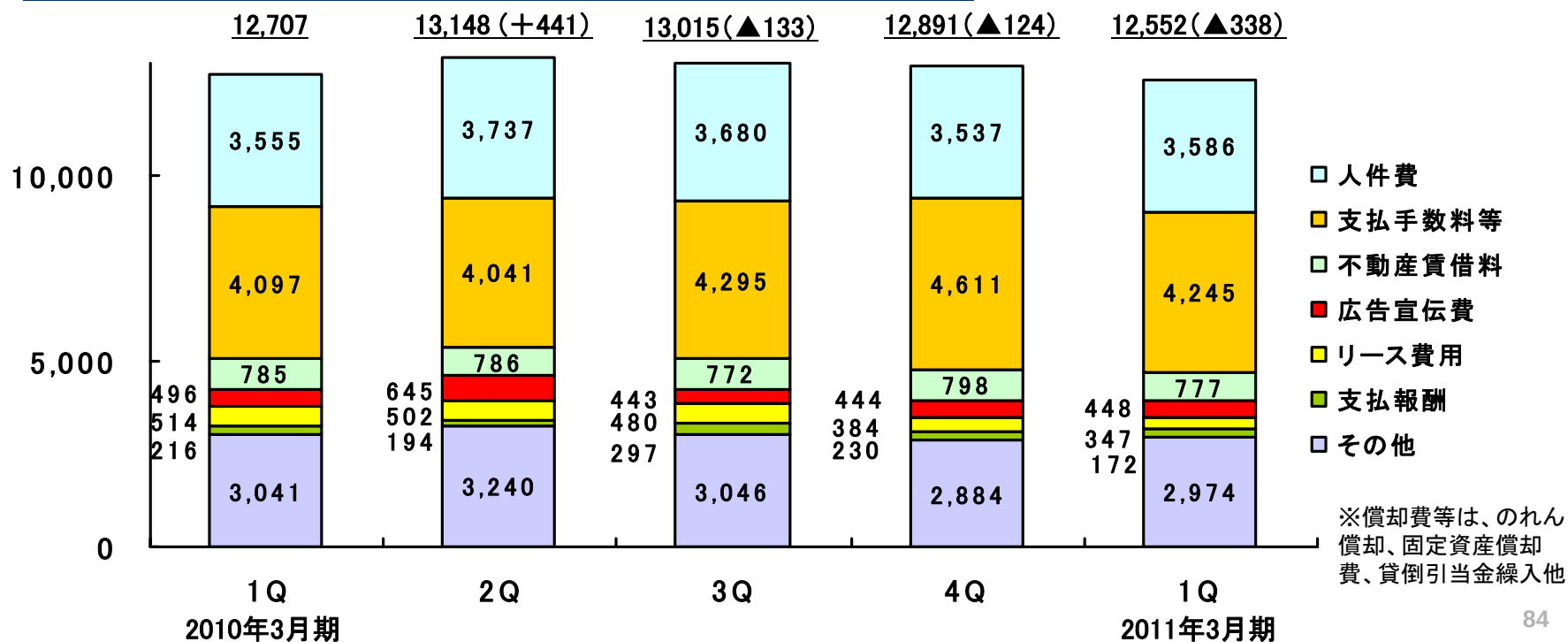
販売費及び一般管理費の削減

- 2008年10月より各社で経費削減担当者を設置し経費削減を強化
- 2011年3月期第1四半期の販売費及び一般管理費は、前四半期比で320百万円の減少に

(単位:百万円)

	2010年3月期				2011年3月期	
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	前四半期比増減額
販管費合計	15,314	15,812	15,423	15,420	15,100	▲320
管理可能費	12,707	13,148	13,015	12,891	12,552	▲338
償却費等	2,607	2,663	2,408	2,529	2,547	+18

■ 管理可能費の内訳(単位:百万円、カッコ内は前四半期比増減額)

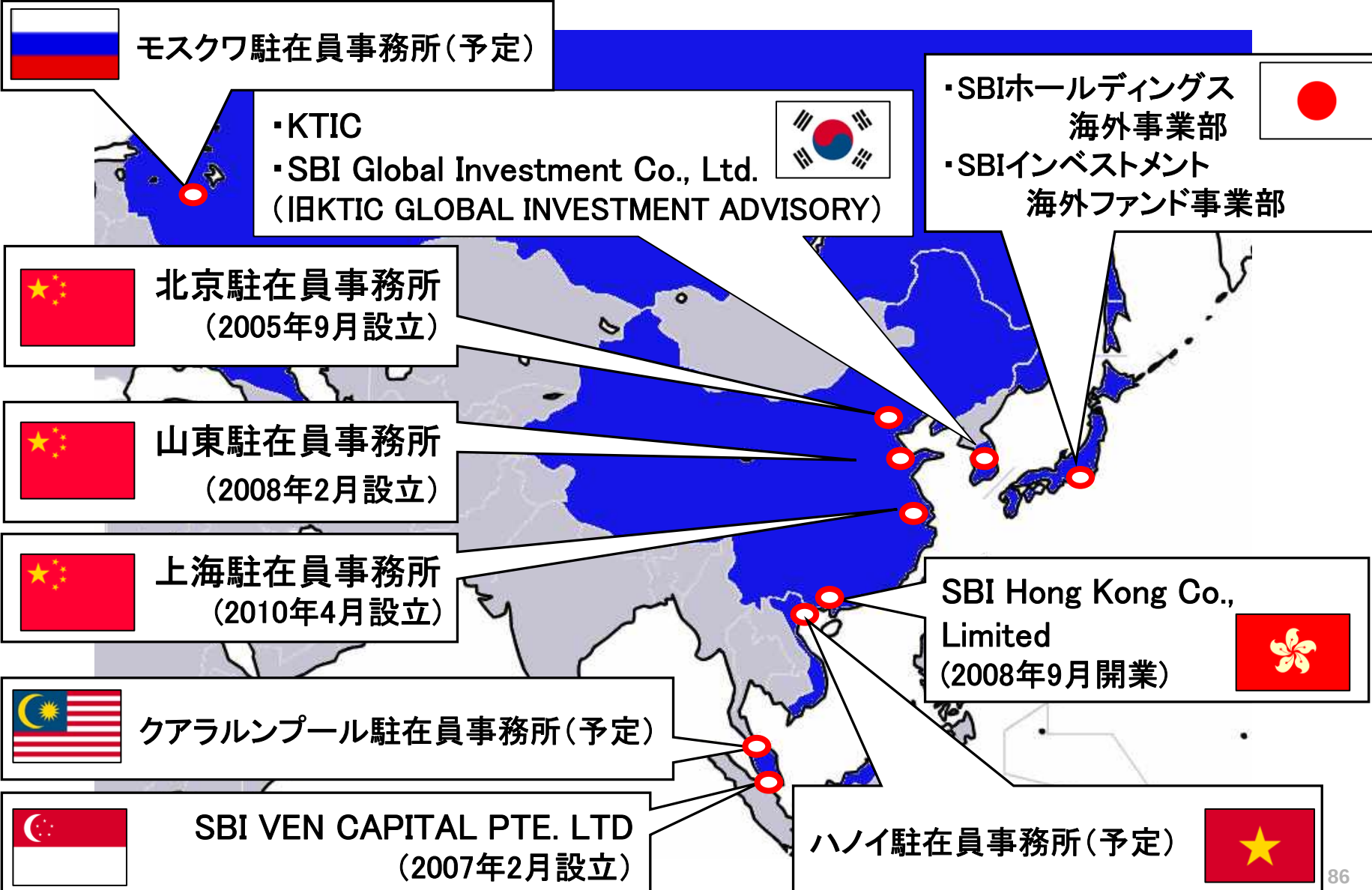


④ 収益力のある海外事業体制の構築

- ✓ 駐在員事務所の現地法人化を進め独立採算を徹底
- ✓ 短期での収益化が期待できる海外金融機関に投資

拡充を進める海外拠点網

駐在員事務所も順次現地法人化し、健全で収益力の高い海外組織体制を目指す



海外事業の収益化に即効性のある 海外金融機関のグループ会社化

ベトナム



ティエン・ホン銀行（2008年5月開業）

2009年8月に発行済株式の20%を取得、今期より持分法適用会社化

設立初年度に黒字化達成。2期目も引き続き業績拡大
本店に加え6支店、13出張所を展開。

＜2010年12月期 第2四半期累計（1-6月）業績※＞

経常収益	46.8億円	口座数	23,902口座
当期純利益	3.5億円	預金	259億円
総資産	572億円	ローン	176億円



※ 10,000ベトナムドン＝46.06円で換算

カンボジア



プノンペン商業銀行（2008年9月開業）

当社出資比率40%で新規設立、今期より持分法適用会社化

順調に利益拡大を続け、創業2期目に黒字化達成。

2010年1月に第一号支店を開設、同3月に累損一掃。

＜2010年12月期 第2四半期累計（1-6月）業績※＞

経常収益	1.5億円	口座数	3,816口座
当期純利益	0.3億円	預金	22.3億円
総資産	35.9億円	ローン	14.8億円



※ 1米ドル＝87.9円で換算

ロシア



オビ銀行（1994年設立）

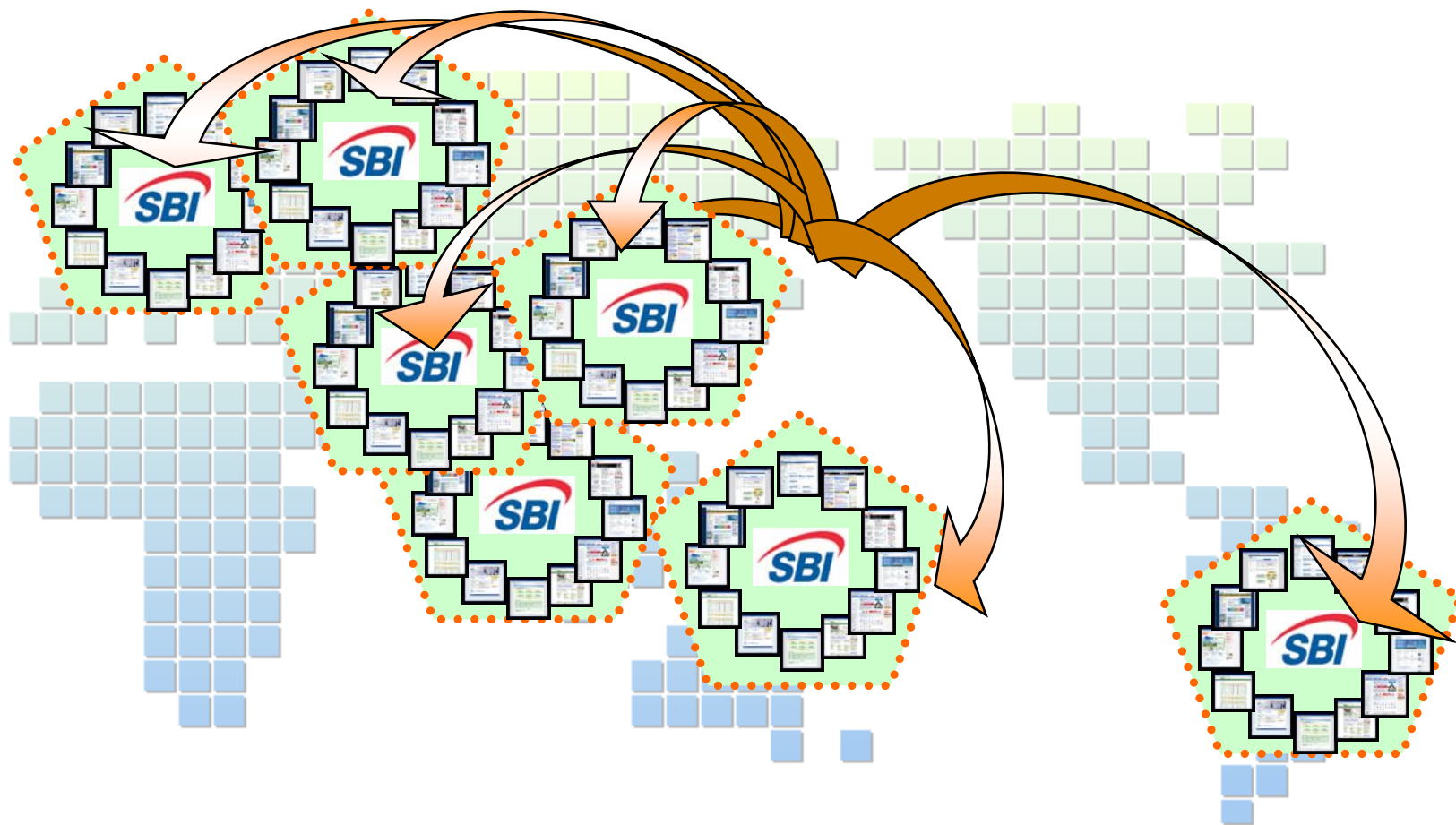
50%出資について基本合意済、株式取得後当社グループ化の予定

＜2009年12月期（通期）の業績※＞

経常収益	30.0億円	口座数	4,861口座
当期純利益	4.1億円	預金残高	241.1億円
資本金	28.1億円	ローン残高	73.5億円
総資産	292.5億円		

※ 1ルーブル＝2.91円で換算

JVファンド設立を通して構築したパートナーシップ等を活用し、
アジアをはじめとする新興国に向けてSBIグループの
インターネット金融サービス事業を移出



日本のSBIから世界のSBIへ

4. 新たな事業分野として成長し、 花開きつつあるバイオ関連事業

(1) SBIバイオテック

(2) SBIアラプロモ

(3) バイオ関連出資先

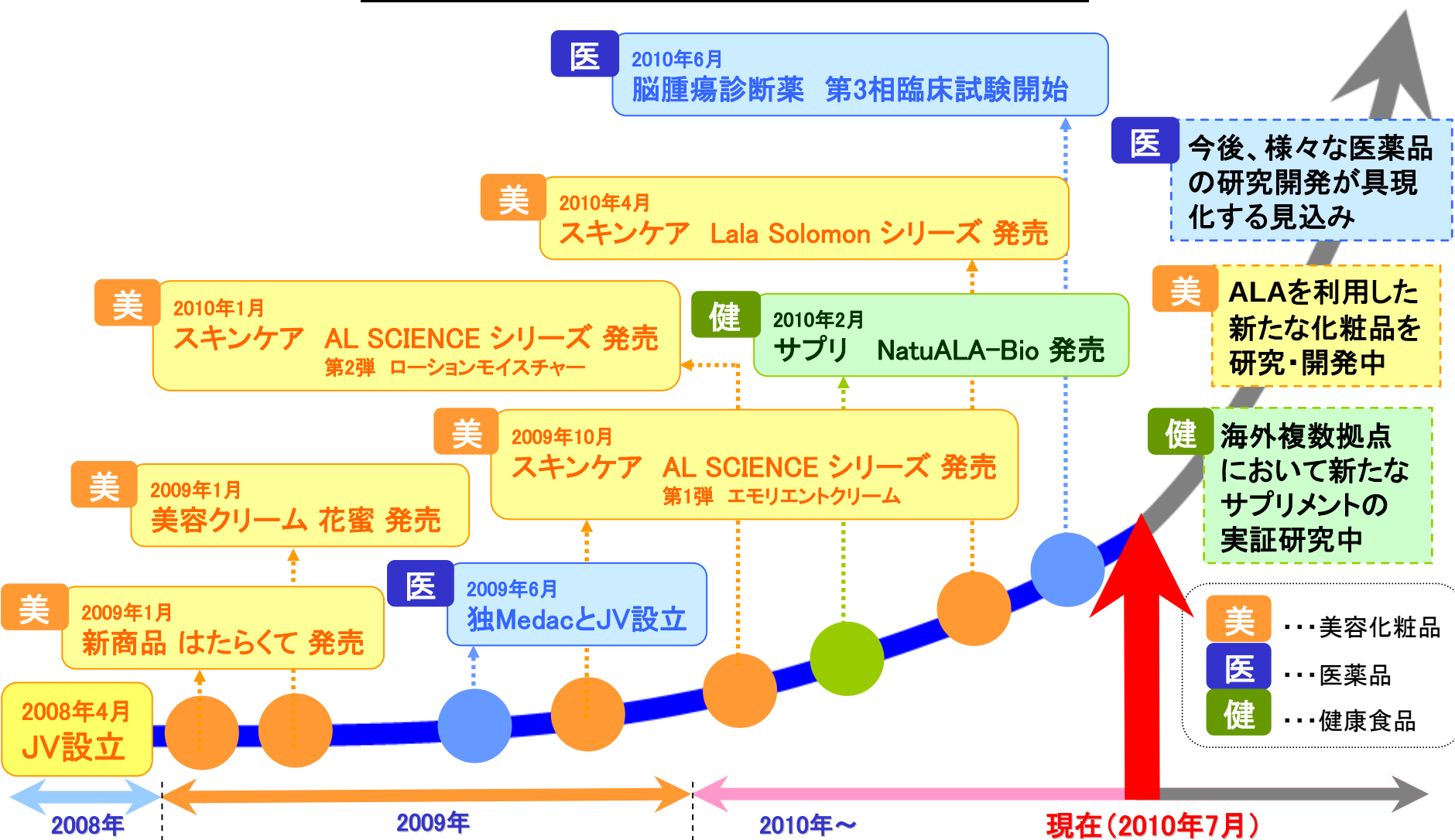
(IPOを待たずに売却(一部または全部)の可能性もある)

SBIバイオテックはグローバルなネットワークを 強みに創薬プロジェクト等が進捗

- 中国の医薬開発ベンチャーHuapu社との提携による核酸医薬プロジェクトは、09年12月上旬より米国にて臨床試験(フェーズⅠ)開始。北米のグループより小児急性白血病への適応拡大の要請を受け、臨床試験準備中。
- 米国ベイラー研究所との提携による免疫細胞療法は、米国にて臨床試験(フェーズⅡ)治験中。現在、日本における臨床研究も準備中。
- がんや自己免疫疾患に対する抗体の研究開発においては、米国MedImmune社(Astrazenecaグループ)と提携したILT7抗体に続き、BST2抗体についても国内外の有力製薬企業と提携交渉中。
- 新規抗がん剤開発において、韓国クリスタルジェノミクス社との提携により発見したリード化合物について、2010年4月に 国際特許出願済。現在、国内バイオベンチャーとの提携により発見したリード化合物についても、特許出願準備中。

SBIアプロモの進捗状況

着実に成長を続けるSBIアプロモの業況



しゅよう

脳腫瘍の一種である悪性神経膠腫の摘出部位の可視化に向けて

こうしゅ

悪性神経膠腫の 術中診断薬（グリオラン）

事業パートナーである独メダック社が
欧州医薬品審査庁より承認を受け、
既に欧州10ヶ国にて使用されている。

**SBIアラプロモがメダック社より、同
診断薬開発に必要なデータ等の日
本での独占的使用権を取得。**

ノーベルファーマ社との共同事業として、第3フェーズからの臨床試験を開始

バイオ関連出資先の研究開発

クオーク・ファーマシューティカルズ社 (SBIグループ出資比率: 36.02%)

1) QPI-1002 (急性腎不全、臓器移植後の拒絶反応防止薬)

- ・2010年1月に、進行中であったフェーズ I・II の臨床試験に対して独立データ安全性モニタリング委員会より次のフェーズに進めるよう推奨を受ける
- ・2010年2月米国食品医薬品局(FDA)が、2010年6月欧州委員会が希少疾病用医薬品に指定

2) QPI-1007 (虚血性視神経症、緑内障)

- ・眼病の神経保護剤としてバイオスプリング社と共同で開発
- ・2010年3月にフェーズ I の臨床試験を開始

3) PF-4523655 (WET型加齢黄斑変性症 (AMD)、糖尿病性網膜症 (DME))

- ・ファイザー社へ独占的なライセンスを許諾
- ・2009年10月に根幹となる知的財産に対し、日本の特許が付与される
- ・現在、フェーズ II aの試験中

■ 2010年7月15日、日東電工社と線維症治療向けのsiRNA医薬品の共同研究開発に合意し、ライセンス契約を締結

アキュセラ社 (SBIグループ出資比率: 28.71%)

ACU-4429 (ドライ型加齢黄斑変性症)

- ・大塚製薬と共同開発の戦略的パートナーシップを構築している
- ・2010年1月、フェーズ II の臨床試験を開始
- ・2010年3月、米国FDAよりファスト・トラック(優先審査対象)に指定される

その他、アメリカの有望なバイオベンチャーに近々出資予定

<http://www.sbigroup.co.jp>